

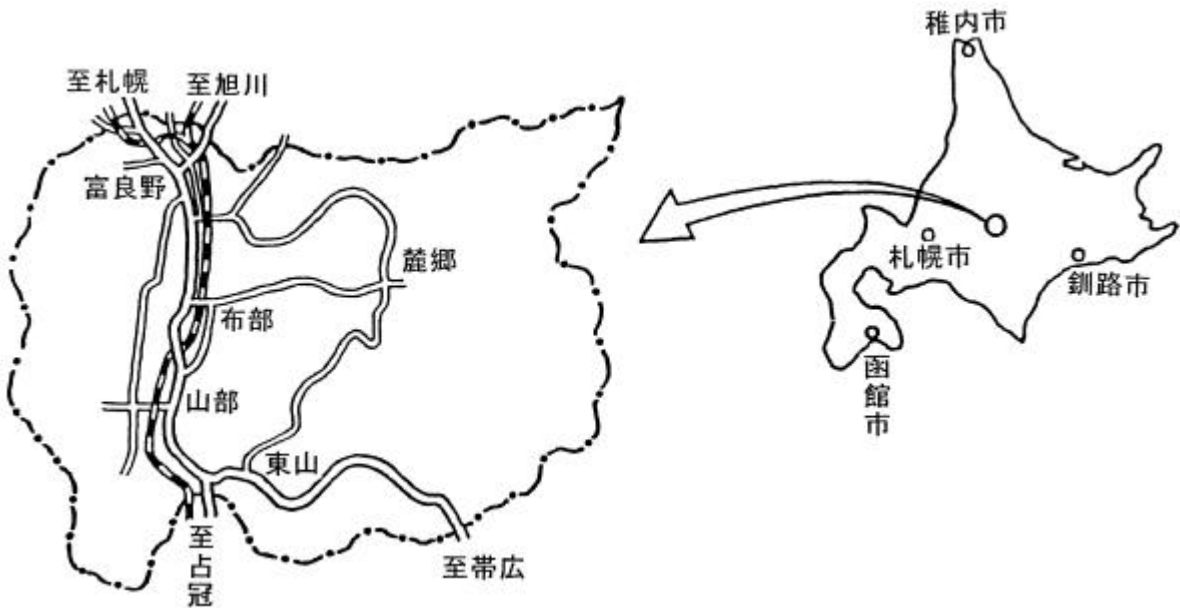
## 第2章 環境の現状と課題

### 1. 自然的・社会的条件

#### (1) 位置

本市は、上川支庁の南部に位置し、東西 32.8km、南北 27.3km、総面積 600.83km<sup>2</sup>の、北海道のほぼ中央に位置している富良野盆地の中心都市であり、東南は南富良野町、西は夕張山地を挟んで芦別市、北は中富良野町、上富良野町と接しています。

富良野市の位置



面積	600.83 km <sup>2</sup>	
位置	経度 (東経)	東端 142° 41'
		西端 142° 16'
	緯度 (北緯)	南端 43° 09'
		北端 43° 24'
広ぼう	東西	32.8 km
	南北	27.3 km

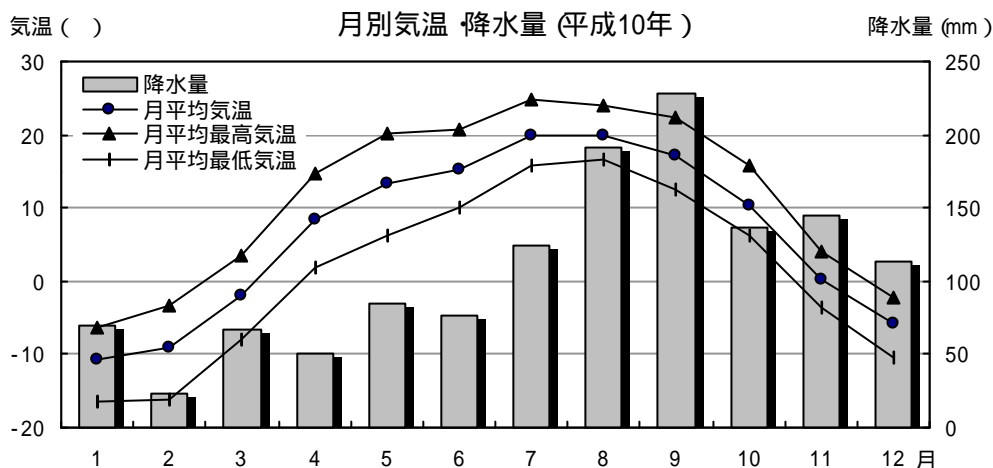
#### (2) 地形・地質

本市は、東部に大雪山系の山並み、西部に芦別岳をはじめとする夕張山地の山並みが連なっており、市域の約7割が森林で覆われています。大雪山系十勝岳の裾部には、八幡丘台地や南麓郷台地など広大な火山灰台地が、夕張山地の裾部には、下位砂礫層台地が分布しています。この2つの山並みに囲まれる形で盆地が南北に細長く形成されており、この盆地の中心部を十勝岳の東南部に源を発する石狩川水系の空知川が南から北へ貫流しています。

表層地質の基盤岩は、空知 - 蝦夷帯により形成されています。西部の夕張山地には半固結～固結堆積物の露出が認められ、その成分は主に泥岩、砂岩・泥岩互層、珪岩質岩石から構成されています。東部地域は、安山岩質岩石、軽石流堆積物、未固結堆積物などによって覆われています。

### (3) 気象

本市の気候は、年間の寒暖差が大きい典型的な内陸性気候を示しています。年平均気温は6～7ですが、夏の日最高気温は30前後、冬の日最低気温は-30前後と寒暖の差が大きくなっています。年間降水量は1,000mm前後であり、初夏から晩秋にかけて多い傾向がみられます。冬季の積雪量は年によって多少異なりますが、近年は極値で50～80cm前後の積雪があり、初雪は11月中旬頃、積雪期間は11月～3月に及んでいます。

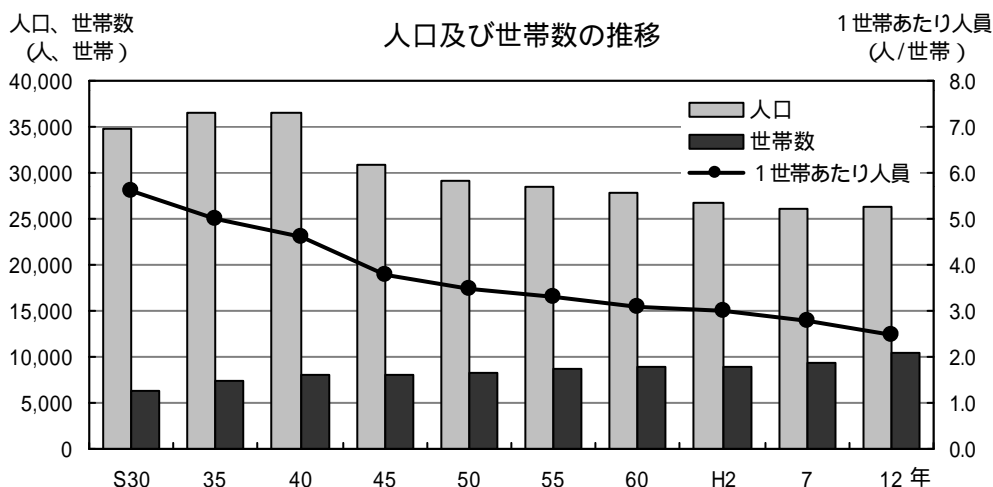


資料：旭川地方気象台

### (4) 人口及び世帯数

本市の平成12年9月末現在の人口は26,280人、世帯数は10,372人となっています。

昭和40年代の高度経済成長時代には、離農者や若者の流出、石勝線開通による根室本線のローカル化などにより過疎化が進行し、人口が大幅に減少しましたが、昭和50年代以降は微減で推移しています。一方、世帯数は増加しており、1世帯あたりの人員は2.5人と核家族化が進行する傾向がみられます。



注) 昭和30年～平成7年は国勢調査(10月1日現在)、平成12年は住民基本台帳(9月末現在)のデータを示す。

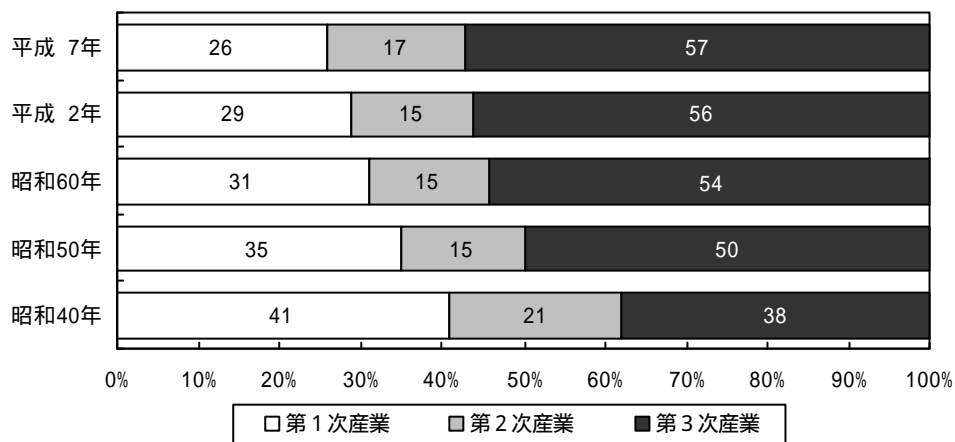
資料：国勢調査、住民基本台帳

## (5) 産 業

平成7年の産業別従業者数は、第1次産業が26%、第2次産業が17%、第3次産業が57%となっています。昭和40年以降、第1次産業は減少し続けているのに対し、第3次産業は年々増加する傾向にあります。第2次産業については、昭和50年以降、ほぼ横ばいでしたが、平成7年ではやや増加する傾向がみられます。

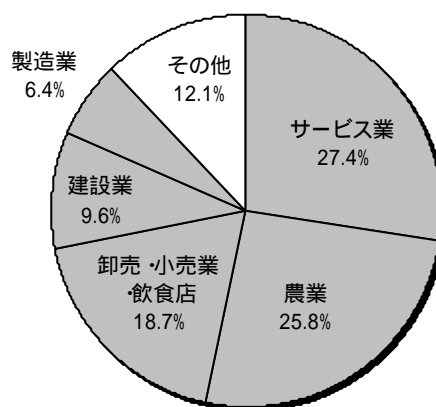
平成7年の上位5業種をみると、サービス業が27.4%と最も多く、次いで農業(25.8%)、卸売・小売業・飲食店(18.7%)、建設業(9.6%)、製造業(6.4%)の順となっており、サービス業、農業及び卸売・小売業・飲食店の3業種で全体の7割強を占めています。

産業別従業者数構成比の推移



資料：国勢調査

産業別従業者数構成比 (平成7年)

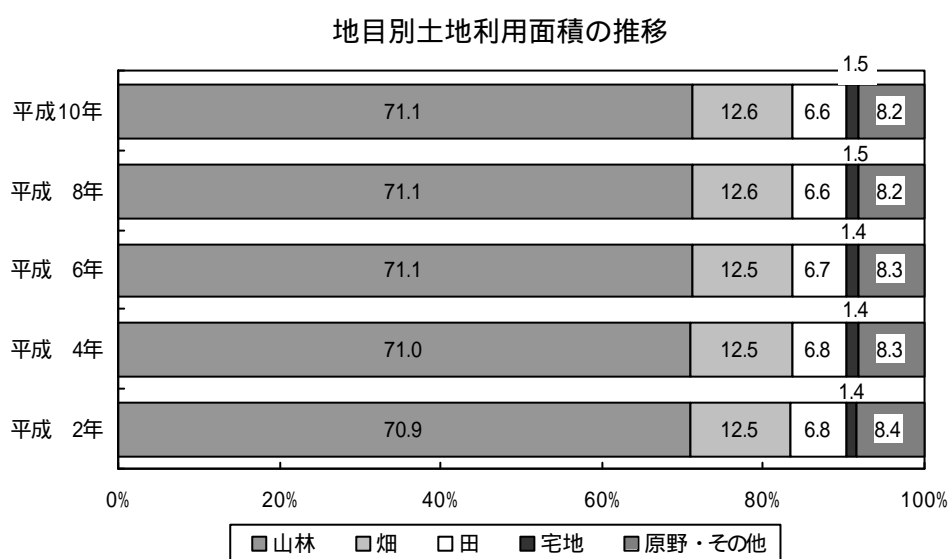


資料：国勢調査

## (6) 土地利用

平成 10 年の地目別面積をみると、市域 60,083ha のうち山林が 71.1%、農地が 19.2%、宅地が 1.5%となっており、山林と農地が市全体の約 9 割を占めています。平成 2 年以降の土地利用の推移をみると、それほど大きな変化はみられませんが、わずかながら水田が減少し、山林、畑及び宅地が増加する傾向がみられます。

市域北部の国道 237 号及び国道 38 号沿い一帯は都市計画区域となっており、平成 11 年 11 月現在、501ha が用途地域に指定されています。その周囲の空知川流域には水田が、東部の大雪山系十勝岳山麓から南部に続く丘陵台地及び西部の芦別岳の扇状地には畑が広がっています。



資料：北海道統計協会「北海道統計書」

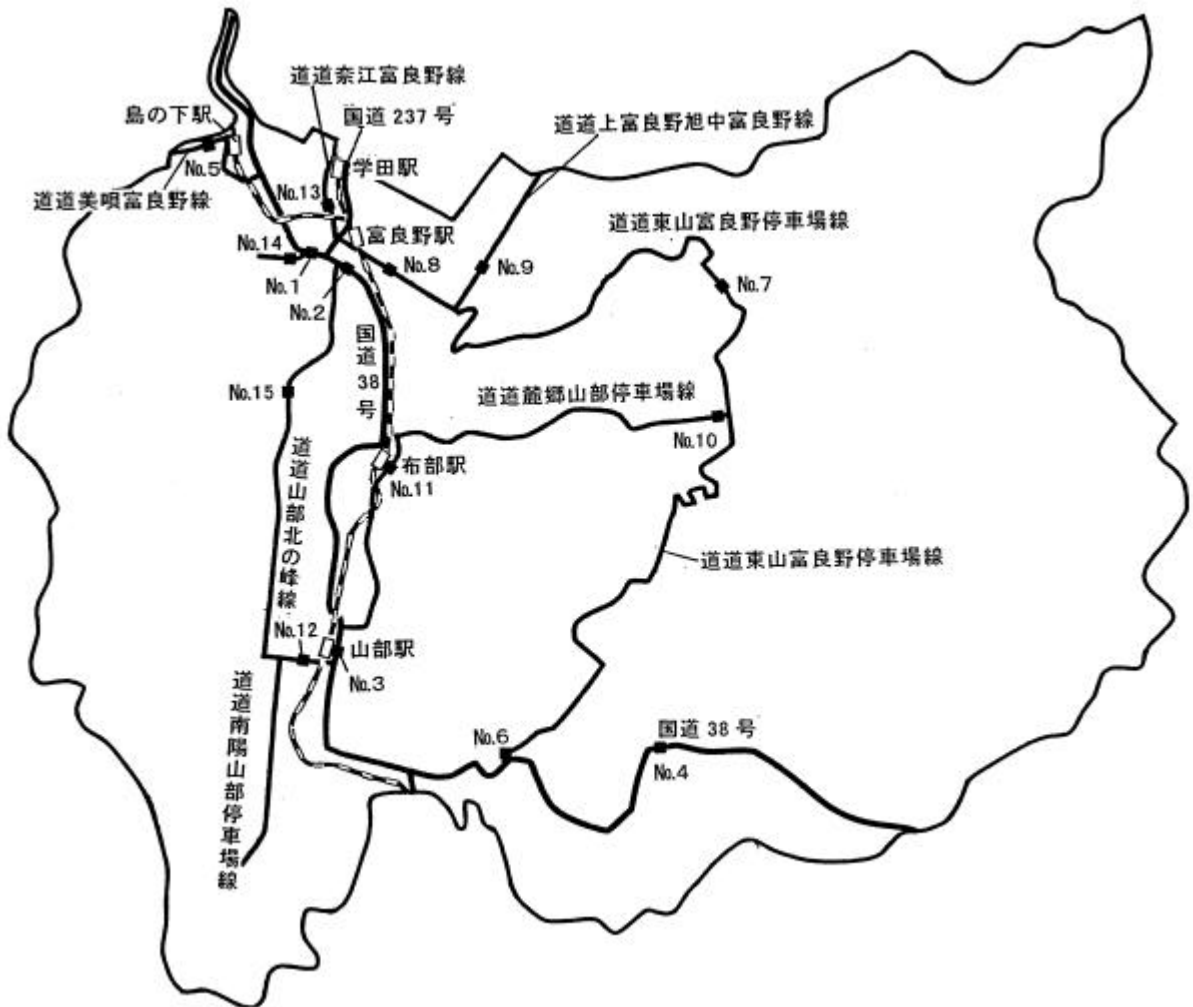
## (7) 交通体系

### 道路

本市の主要幹線道路としては、空知圏と道東圏を結ぶ国道 38 号が空知川沿いに縦断し、さらに旭川圏と日高圏を結ぶ国道 237 号が縦貫しています。また、国道 38 号には、道道東山富良野停車場線、道道山部北の峰線、道道奈江富良野線、道道北の峰線、道道美唄富良野線の道道 5 路線が接続し、交通の要衝となっています。

市内では主要幹線道路 15 ヶ所において交通量を測定しており、平成 9 年度の道路交通センサスによると、国道 38 号では 12 時間で 1 万台を上回る交通量がみられるほか、15 ヶ所中 13 ヶ所において交通量が増加しています。また、自動車登録台数についても、一時期よりは減っていますが、長期的にみると増加しており、自動車への依存度が高まっている傾向がみられます。

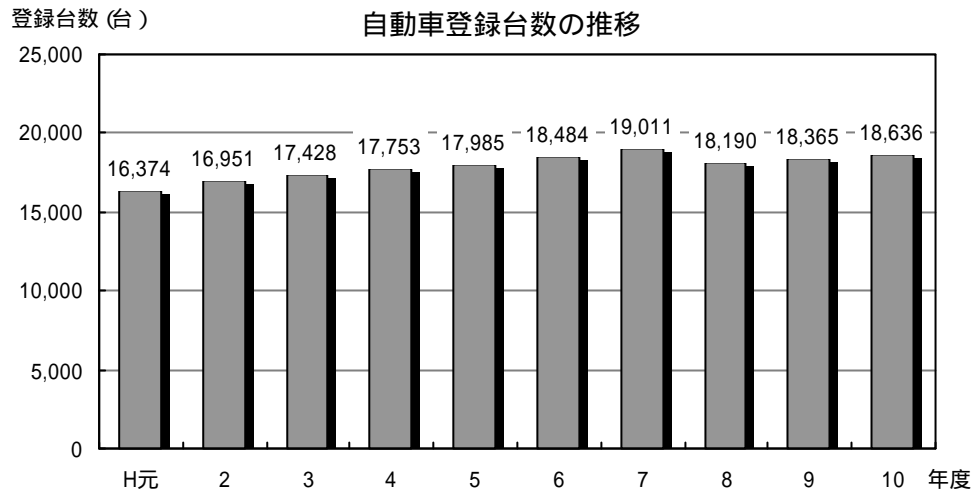
交通体系及び主要幹線道路における交通量



路線名	観測地点名	12時間交通量(台)		伸び率
		平成6年度	平成9年度	
一般国道38号	1 学田1区	10,984	10,504	0.96
	2 緑町8番12号	8,716	9,435	1.08
	3 山部1条北1	5,562	6,616	1.19
	4 西達布市街54号	3,369	3,560	1.06
道道美唄富良野線	5 富良野尻岸馬内	419	435	1.04
道道東山富良野停車場線	6 字東山	634	684	1.08
	7 字新富丘	823	774	0.94
	8 字大沼	2,009	2,352	1.17
道道上富良野旭中富良野線	9 字鳥沼	2,337	2,528	1.08
道道麓郷山部停車場線	10 字麓郷	1,674	1,844	1.10
	11 字布部	461	599	1.30
道道南陽山部停車場線	12 山部	1,823	2,033	1.12
道道奈江富良野線	13 桂木町	2,378	2,655	1.12
道道北の峰線	14 字下御料	923	4,781	5.18
道道山部北の峰線	15 字御料	749	937	1.25

資料：北海道開発局道路計画課

「平成9年度 全国道路交通情勢調査(道路交通センサス)一般交通量調査箇所別基本表 第一分冊」



資料：北海道統計協会「北海道統計書」

### 鉄 道

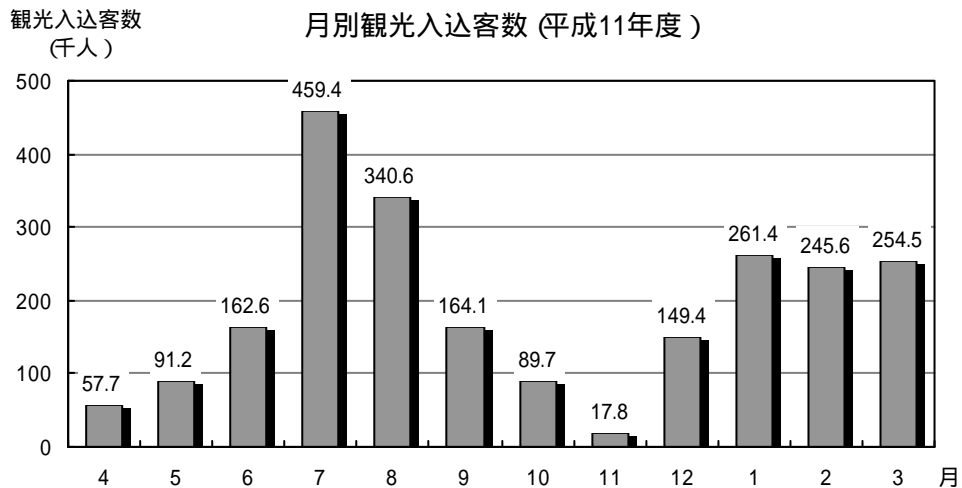
鉄道については、JR根室本線が国道38号、JR富良野線が国道237号と並行する形で整備されています。富良野駅における乗客輸送状況をみると、平成10年度では約35万人の利用があり、近年は減少する傾向がみられます。

### バ ス

バス路線については、本市と札幌を結ぶ高速バスや旭川空港との直行バス、観光を目的としたふらのミニ市内観光循環バス、定期観光バスなどが整備されています。平成10年度の路線バスの乗車人員は約54万人であり、近年は減少する傾向がみられます。

### (8) 観光客数

本市の平成11年度の観光入込客数は229万4千人であり、年間で人口の90倍近い観光客が訪れます。月別にみると、7～8月のラベンダーの季節、1～3月のスキーシーズンに、観光客が多い傾向がみられます。



資料：北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書 平成11年度版」

## 2. 自然環境

### (1) 水質

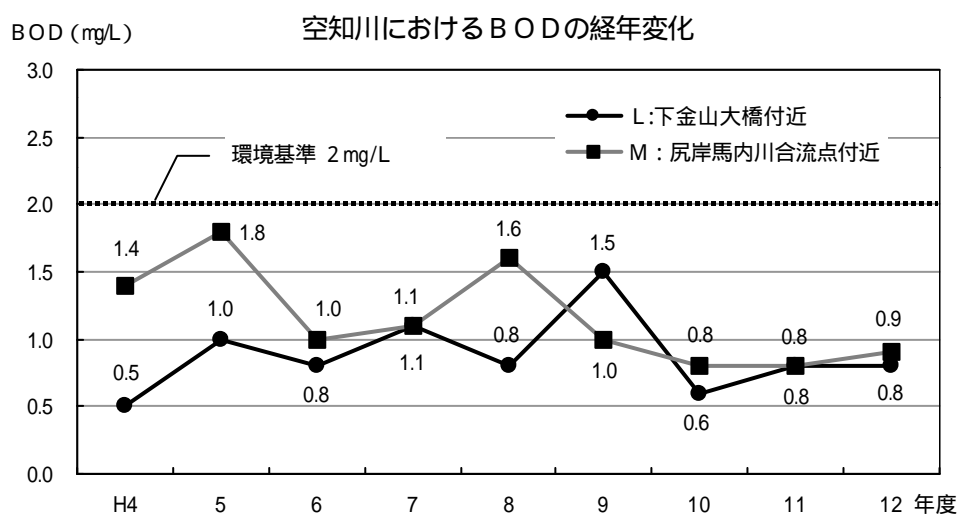
市内では、河川 17 ヶ所において水質調査を実施しています。

水質の汚れを示す指標の 1 つである BOD（生物化学的酸素要求量）の推移をみると、環境基準の A 類型の指定を受けている空知川（西達布川合流点から下流域）において、近年は 2 ヶ所の調査地点で環境基準（2 mg/L 以下）を達成しています。その他の河川については、環境基準の類型指定がされていませんが、いずれも空知川に流入する河川であることから、参考として空知川と同様に A 類型にあてはめて比較すると、北 1 号川、無頭川、基線川、北 2 線川及び布礼別川において環境基準を上回る値がみられ、特に都市下水路である無頭川では高い傾向がみられます。また、平成 2～10 年度における公害に関する苦情件数（総数 27 件）のうち、水質汚濁に関する苦情は 5 件みられます。これらの水質汚濁の主な原因は生活排水であると考えられ、生活排水対策が今後の大きな課題となっています。

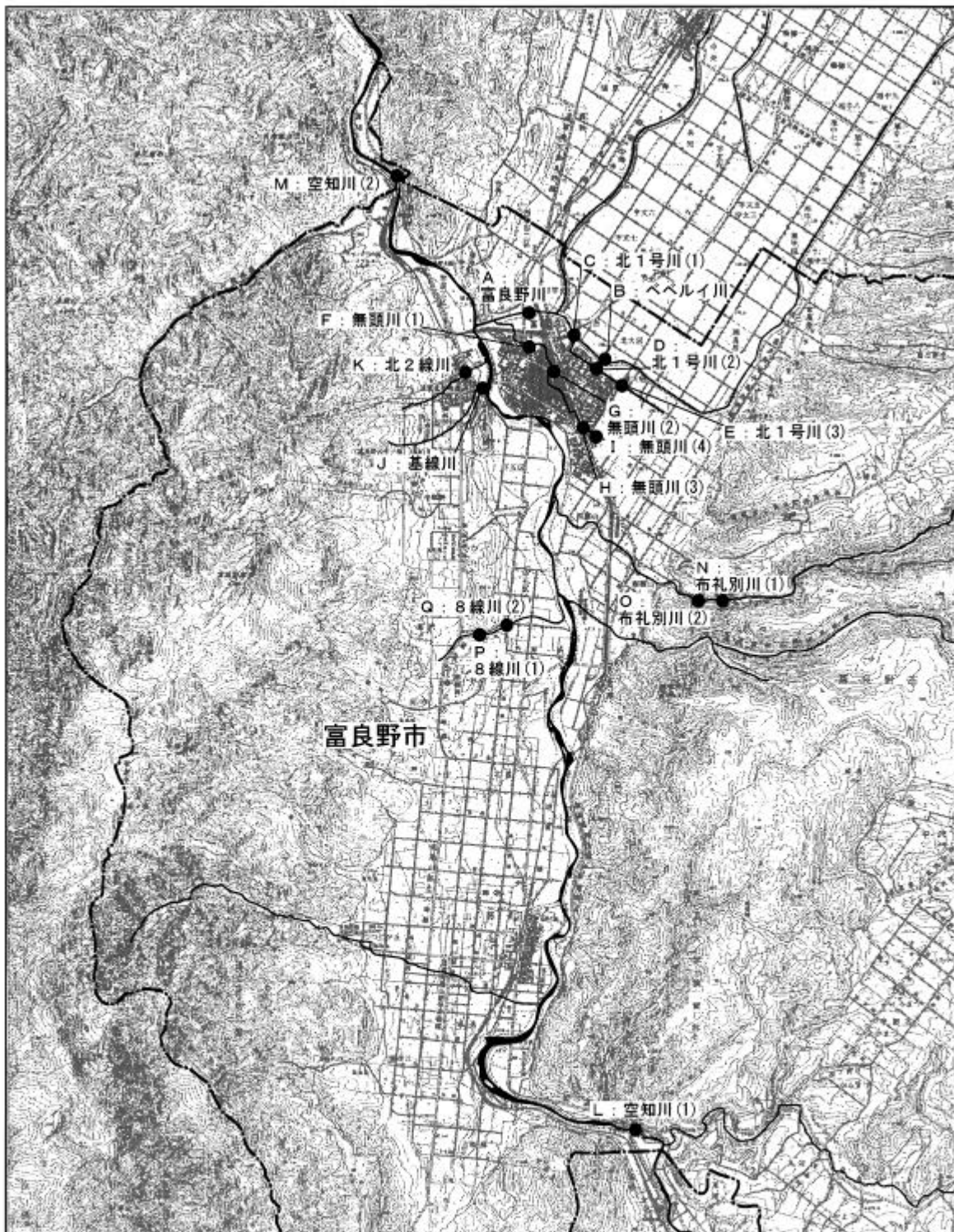
市では、平成 9 年度に「生活排水処理基本計画」を策定しており、平成 22 年度の生活排水処理率 72.5% を目標として掲げています。平成 11 年度現在、計画処理区域内人口（＝行政区域内人口）に対する生活排水処理率は約 46.7% となっています。

今後は、富良野地区公共下水道認可区域及び山部地区特定環境保全公共下水道区域においては下水道の整備を、その他の区域においては合併処理浄化槽の設置を推進し、生活排水による水質汚濁負荷を削減することが大きな課題となっています。市では平成 10～19 年度まで合併処理浄化槽整備事業として、合計 350 基（対象 1,000 人）に対して設置助成を行う計画であり、平成 11 年度までに 59 基（対象 297 人）について助成を行っています。

なお、地下水については、開発局が西扇山地区内の井戸 1 ヶ所において、四塩化炭素、1,1,1-トリクロロエタン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンについて測定しており、いずれの項目も検出されていない状況です。



資料：富良野市：「主要河川水質検査委託報告書」



河川水質調査地点





## B O D の経年変化

単位：mg/L

図	河川名	採水地点名	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
A	富良野川	富良野橋付近	1.1	1.5	0.8	1.8	1.1	0.9	0.9	0.8	0.9
B	ベベルイ川	東4線橋付近	<0.5	1.0	1.1	1.7	0.6	0.6	0.8	0.9	0.9
C	北1号川(1)	ベベルイ川合流点付近	1.7	2.3	1.0	3.0	4.5	3.3	2.0	1.2	1.1
D	北1号川(2)	瑞穂東4線橋付近	2.2	2.0	1.7	2.3	1.2	5.0	3.4	1.2	1.0
E	北1号川(3)	麻町東5線橋付近	2.1	0.8	2.1	2.8	0.8	0.8	1.1	0.8	1.1
F	無頭川(1)	道道奈江富良野線付近(桂木町)	9.7	1.8	3.4	3.4	2.4	1.4	1.9	1.8	1.8
G	無頭川(2)	常磐通り付近(日の出町)	3.0	1.5	5.2	7.9	8.9	2.3	11.0	4.0	2.9
H	無頭川(3)	東町本通り踏切付近(東町)	2.1	1.1	4.9	20.0	93.0	2.2	36.0	1.8	7.6
I	無頭川(4)	扇瀬公園付近	2.1	1.1	1.7	4.1	16.0	0.6	5.4	4.1	16.0
J	基線川	空知川合流点付近	<0.5	1.6	1.0	1.8	4.5	1.2	2.0	1.5	1.0
K	北2線川	水車川橋付近	2.2	1.6	0.9	0.9	1.1	0.6	0.6	1.1	0.9
L	空知川(1)	下金山大橋付近	<0.5	1.0	0.8	1.1	0.8	1.5	0.6	0.8	0.8
M	空知川(2)	尻岸馬内川合流点付近	1.4	1.8	1.0	1.1	1.6	1.0	0.8	0.8	0.9
N	布礼別川(1)	一斉清掃臨時埋立地付近(上流部)	1.8	4.0	0.9	1.2	0.7	1.0	0.8	0.8	0.8
O	布礼別川(2)	一斉清掃臨時埋立地付近(下流部)	1.2	<0.5	1.0	1.3	0.8	0.8	0.7	0.6	0.7
P	8線川(1)	8線連絡橋付近	1.9	1.0	0.7	1.1	0.9	<0.5	0.5	0.6	1.1
Q	8線川(2)	基線付近	1.2	0.8	1.0	1.0	1.0	<0.5	0.5	0.6	0.5

備考：1．調査は、年1回、9月、10月、11月のいずれかに行っている。

2．網掛けは、環境基準を超える値を示す(参考として環境基準と比較)。

資料：富良野市「主要河川水質検査委託報告書」

## 生活排水処理形態の内訳

区 分	平成 11 年度	平成 22 年度 (目標年次)
1．計画処理区域内人口	26,057 人	25,198 人
2．水洗化・生活雑排水処理人口	12,165 人	18,261 人
(1) コミュニティ・プラント	0 人	0 人
(2) 合併処理浄化槽	544 人	1,295 人
(3) 下水道	11,621 人	16,966 人
(4) 農業集落排水施設	0 人	0 人
3．水洗化・生活雑排水未処理人口 (単独処理浄化槽)	1,857 人	0 人
4．非水洗化人口	12,035 人	6,937 人
5．計画処理区域外人口	0 人	0 人
生活排水処理率	46.7 %	72.5 %

備考：生活排水処理率は、計画処理区域内人口に対する水洗化・生活雑排水処理人口の割合を示す。

資料：富良野市「クリーン・タウン計画(富良野市生活排水処理基本計画)」

富良野地区環境衛生組合「汚泥再生処理センター基本計画書」



資料: 富良野市「クリーン・タウン計画(富良野市生活排水処理基本計画)」

## (2) 土 壤

健全な農業を展開していくうえでも、農薬や化学肥料に頼らないクリーン農業を推進し、豊かな土壌を育むことが必要不可欠です。市では、平成 11 年度に「第 2 次富良野市農業計画」を策定し、クリーン農業を積極的に推進するための取組の方向を示しています。

堆肥化については、各農家が積極的な取組を行っているほか、市が昭和 59 年度に有機物供給センターを建設し、昭和 60 年度から生ごみ、農作物残渣、パークを原料として有機肥料（バイオソイル）の生産を行っており、生ごみの堆肥化、農地への還元という循環ルートは、確立している状況にあります。平成 11 年度には、2,576 t/年の有機肥料が生産されており、そのうち製品化された有機肥料は、一部市民に還元されるほか、山部地区農業協同組合員に有料で引き取られています。また、富良野農業協同組合、東山地区農業協同組合の管理の下においても堆肥の生産が行われており、平成 11 年度には、それぞれ 2,270m<sup>3</sup>/年、2,193 t/年の堆肥が生産されています。さらに、畜産農家においても畜ふんの堆肥化が積極的に行われており、平成 11 年度では約 54,000 t の堆肥の生産・農地還元が取り組まれております。

なお、生ごみについては、平成 15 年度以降、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町及び占冠村によって構成される富良野地区環境衛生組合が設置する汚泥再生処理センター（厚生省の国庫補助事業対象施設）において、高速堆肥化される計画です。

そのほか、土壌汚染を未然に防ぐために、工場・事業場を中心に有害化学物質の適正使用・管理を徹底することが必要です。

堆肥生産量

	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度
富良野市有機物供給センター ( t / 年 )	2,176	2,132	2,353	2,654	2,576
富良野農業協同組合 ( m <sup>3</sup> / 年 )	2,024	1,854	2,725	1,946	2,270
東山地区農業協同組合 ( t / 年 )	2,041	1,714	2,355	3,350	2,193

資料：富良野市市民部「平成 12 年度 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要」、  
富良野農業協同組合、東山地区農業協同組合

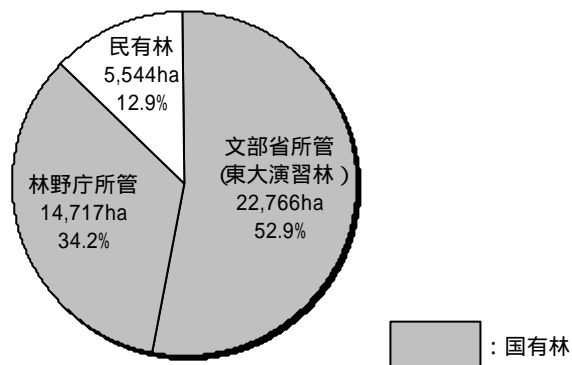
### クリーン農業

有機物の施用などによって土づくりに努め、農薬や化学肥料を最小限に留めるなど、環境との調和に配慮した安全・高品質な農作物の生産を進める農業。

### (3) 森林

平成 10 年度末現在、本市の森林面積は 43,027ha と総面積（60,083ha）の約 7 割を占めており、比較的森林に恵まれた環境にあります。森林面積の内訳をみると、東大演習林などの文部省所管 22,766ha（52.9%）、林野庁所管 14,717ha（34.2%）と国有林が 9 割近くを占めており、民有林は 5,544ha と 1 割強を占めるにすぎません。市では平成 11 年度より「富良野市森林整備計画」に基づいて民有林の森林整備を推進していますが、市域においては国有林が大部分を占めることから、森林の保全・管理については国との協力・提携が必要不可欠です。

森林面積の内訳 (平成10年度)



資料：上川南部森林計画

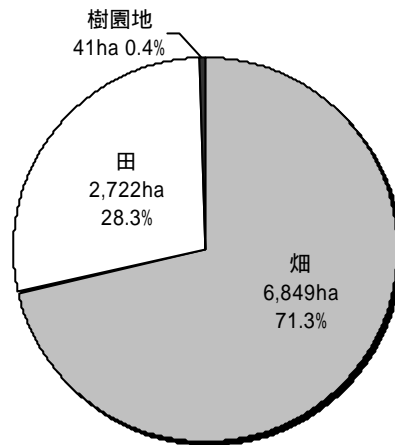
### (4) 農地

平成 11 年現在、本市の耕地面積は 9,612ha と総面積（60,083ha）の約 2 割を占めています。内訳をみると、畑が 6,849ha（71.3%）と最も多く、水田が 2,722ha（28.3%）、樹園地が 41ha（0.4%）となっており、東部の大雪山系十勝岳山麓から南部に続く丘陵台地、西部の芦別岳の扇状地、空知川沿いの扇状地一帯が農用地区域に指定されています。

農家戸数、農家人口及び耕地面積については、近年、いずれも減少する傾向がみられます。平成 11 年度では昭和 60 年度と比較して、農家戸数が 70%、農家人口が 67%、耕地面積が 95%に減少しており、農業後継者の確保や農地の維持管理が今後の大きな課題となっています。

農地については、平成 11 年度に策定された「第 2 次富良野市農業計画」において、魅力ある農業と活力ある農村づくりに向けた具体的な施策が示されています。

耕地面積の内訳 (平成11年)



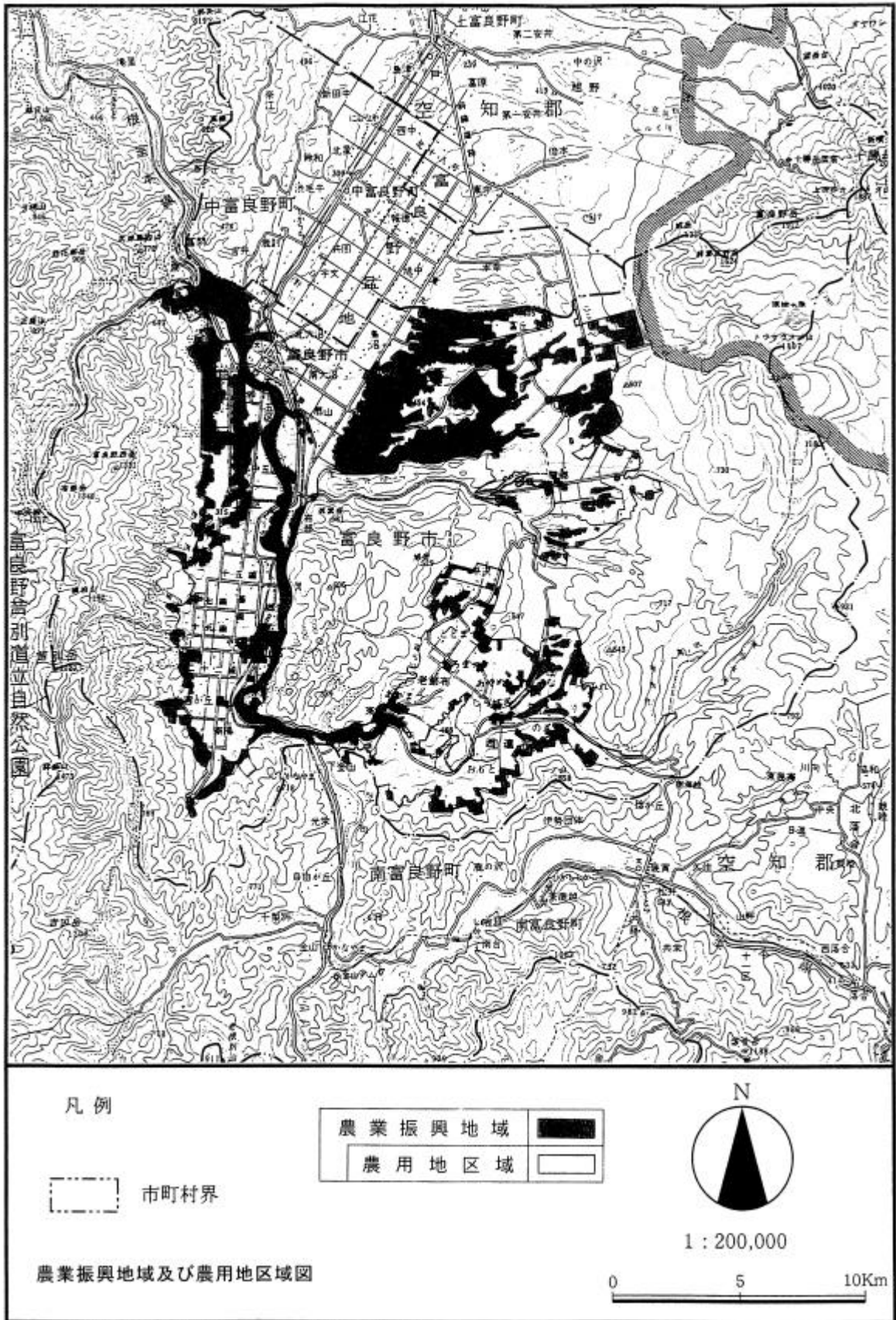
資料：農業基本調査、農業センサス

農家戸数・農家人口及び耕地面積の推移

各年2月1日現在

	農家戸数 (戸)	農家人口 (人)	耕地面積 (ha)
昭和 60 年度	1,517	6,992	10,126
平成 2 年度	1,377	6,351	10,117
平成 7 年度	1,218	5,504	9,956
平成 11 年度	1,067	4,653	9,612

資料：農業基本調査、農業センサス



資料：北海道企画振興部「北海道土地利用基本計画図」

資料：北海道企画振興部「北海道土地利用基本計画図」

## (5) 大 気

大気汚染の主な発生源としては、工場や自動車からの排ガスが考えられます。

本市においては、大気汚染の発生源となるような大きなばい煙発生施設はみられません。また、市民アンケートによると、大気汚染に対する関心度はまだそれほど高くなく、本市やまわりの環境が良い理由として、「空気がきれい」という回答が最も多くみられます。現在、市内では大気質の測定を行っていませんが、「1. 自然的・社会的条件 (7)交通体系」の項で述べたように、自動車交通量や自動車登録台数が年々増加し、自動車への依存度が高まっていること、平成2～10年度における公害に関する苦情件数（総数27件）のうち、大気汚染に関する苦情は9件と1/3を占めることから、今後は主要幹線道路沿いや市街地において、大気質の測定地点を設置し、経年的に監視を行う必要があります。

## (6) 動 物

第2回自然環境保全基礎調査によると、本市周辺には、中・大型哺乳類のエゾシカ、ヒグマ、キタキツネ、タヌキ（エゾタヌキ）など多数が確認されています。また、自然環境保全基礎調査及び第2回自然環境保全基礎調査によると、哺乳類はナキウサギ、鳥類はギンザンマシコ生息地、特定昆虫類はクモマエゾトンボ、オオルリオサムシ、アラメハナカミキリ、ヒメギフチョウ、カラフトルリシジミ、ダイセツドクガなど多数が確認されています。このうち、ギンザンマシコについては、北海道レッドリストの希少種に指定されています。

しかし、一般的に調査年度が古く、動物に関するデータが不足している状況であり、新たな情報の収集が必要とされています。

貴重な哺乳類、鳥類及び昆虫類（環境庁調査）

区分	種 名	文献
哺乳類	ナキウサギ	
鳥 類	ギンザンマシコ	
昆虫類	クモマエゾトンボ オオルリオサムシ ダイセツオサムシ アイヌキンオサムシ アラコガネコメツキ クビボソハナカミキリ アラメハナカミキリ キタアラメナガゴミムシ カラフトタカネキマダラセセリ ヒメギフチョウ カラフトルリシジミ アサヒヒョウモン ツマジロウラジャノメ ダイセツタカネヒカゲ ムクゲエダシャク ダイセツドクガ シベチャケンモン	

資料： 環境庁「自然環境保全調査 すぐれた自然図（上川）」（昭和48年度調査）  
環境庁「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図（上川）」（昭和53年度調査）」

富良野地方の鳥類については、「富良野市史」に観察記録がまとめられており、40科126種の鳥類が確認されています。そのうち北海道レッドリストに該当する種は、絶滅危機種1種、絶滅危惧種1種、絶滅危急種4種、希少種13種、留意種1種の合計20種となっています（鳥類リストについては、資料編を参照）。

富良野地方の鳥類（北海道レッドリスト該当種）

区分	種名	科名
絶滅危機種	シマフクロウ	フクロウ
絶滅危惧種	クマタカ	タカ
絶滅危急種	オオタカ	タカ
	ハイタカ	タカ
	ハヤブサ	ハヤブサ
	クマゲラ	キツツキ
希少種	コハクチョウ	カモ
	オシドリ	カモ
	ケアシノスリ	タカ
	エゾライチョウ	ライチョウ
	ウズラ	キジ
	クイナ	クイナ
	ヒクイナ	クイナ
	オオジシギ	シギ
	トラフズク	フクロウ
	ヨタカ	ヨタカ
	ヤマセミ	カワセミ
	アカショウビン	カワセミ
	ギンザンマシコ	アトリ
留意種	オオアカゲラ	キツツキ

資料：「富良野市史 第三巻」

北海道レッドデータブックの区分及び基本概念

区分	基本概念
絶滅種	本道ですでに絶滅したと考えられる種または亜種
野生絶滅種	本道では自然界ですでに絶滅したと考えられているが飼育等の状態で生存が確認されている種または亜種
絶滅危機種	絶滅の危機に直面している種または亜種
絶滅危惧種	絶滅の危機に瀕している種または亜種
絶滅危急種	絶滅の危機が増大している種または亜種
希少種	存続基盤が脆弱な種または亜種
地域個体群	保護に留意すべき地域個体群
留意種	保護に留意すべき種または亜種



## (7) 植物

本市では、大雪山、芦別岳などの高山に高山低木群落などの寒帯・高山帯自然植生がみられ、山地や丘陵地には、主にエゾマツ - トドマツ群集、エゾマツ - ダケカンバ群落などの亜寒帯・亜高山帯自然植生が広く分布しています。低山域には、下部針広混交林やエゾイタヤ - シナノ群落などのブナクラス域自然植生がみられ、トドマツ植林などの人工林も混在しています。低地は、畑地や水田などに広く利用されています。

第3回自然環境保全基礎調査によると、大雪山高山帯植生、富良野西岳石灰岩植物群落、芦別岳山岳植生及び下ホロカメットク山自然植生などの4つが、貴重な植物群落として選定されています。

また、環境庁の巨樹・巨木調査によると、本市には鳥沼公園内の樹林が巨樹・巨木林として確認されており、いずれも推定樹齢百年から二百年のヤチダモやミズナラで構成されています。

貴重な植物群落（環境庁調査）

名称	基準等
大雪山高山帯植生	特定植物群落（D）
富良野西岳石灰岩植物群落	特定植物群落（D）
芦別岳山岳植生	特定植物群落（D）
下ホロカメットク山自然植生	特定植物群落（A、D）

注）A：原生林もしくはそれに近い自然林

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、湿地、高山、石灰地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

資料：環境庁「第3回自然環境保全基礎調査 北海道自然環境情報図（上川）」  
（昭和59～61年度調査）

巨樹・巨木林の状況（環境庁調査）

区分	所在地	所有者	推定樹齢	幹周 (cm)	樹高 (m)	樹種名	保護 制度指定
樹林	富良野市 鳥沼公園	富良野市	100～ 199年	340	23	ヤチダモ	都市公園法 に基づく特 殊公園(風致 公園)
				330	25	ミズナラ	
				355	26	ミズナラ	
				315	18	ミズナラ	
				300	18	ミズナラ	

資料：環境庁「第4回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林」（平成3年）

本市の植物については、「富良野市史」に観察記録がまとめられており、106科718種の植物が確認されています。そのうち北海道レッドリストに該当する種は、絶滅危機種3種、絶滅危惧種4種、絶滅危急種14種、希少種24種の合計45種となっています（植物リストについては、資料編を参照）。

富良野市の植物（北海道レッドリスト該当種）

区分	種名	科名
絶滅危機種	ツクモグサ	キンポウゲ
	エゾオオケマン	ケシ
	ホテイアツモリソウ	ラン
絶滅危惧種	リシリビャクシン	ヒノキ
	ベニバナヤマシャクヤク	ポタン
	キンセイラン	ラン
	サルメンエビネ	ラン
絶滅危急種	ヒメミズニラ	ミズニラ
	カトウハコベ	ナデシコ
	クシロワチガイソウ	ナデシコ
	フクジュソウ	キンポウゲ
	シラネアオイ	シラネアオイ
	ソラチコザクラ	サクラソウ
	ユウバリリンドウ	リンドウ
	エゾノクサタチバナ	ガガイモ
	エゾコウゾリナ	キク
	エゾイトイ	イグサ
	エゾコウボウ	イネ
	イチヨウラン	ラン
	シロウマチドリ	ラン
	トキソウ	ラン
希少種	コスギラン	ヒカゲノカズラ
	イチヨウシダ	チャセンシダ
	ハイネズ	ヒノキ
	ダイセツトリカブト	キンポウゲ
	パイカモ	キンポウゲ
	クロバナハンショウヅル	キンポウゲ
	オクエゾサイシン	ウマノスズクサ
	ヤマシャクヤク	ポタン
	コマクサ	ケシ
	アラゲアカサンザシ	バラ
	チョウノスケソウ	バラ
	キンロバイ	バラ
	ミヤマハンモドキ	クロウメモドキ
	コイワカガミ	イワウメ
	カラフトイチヤクソウ	イチヤクソウ
	サクラソウモドキ	サクラソウ
	エゾコザクラ	サクラソウ
	オオサクラソウ	サクラソウ
	オニク	ハマウツボ
	ムシトリスミレ	タヌキモ
	エゾタカネニガナ	キク
	ホソバコウゾリナ	キク
	チシマミクリ	ミクリ
	フタバラン	ラン

資料：「富良野市史 第三巻」

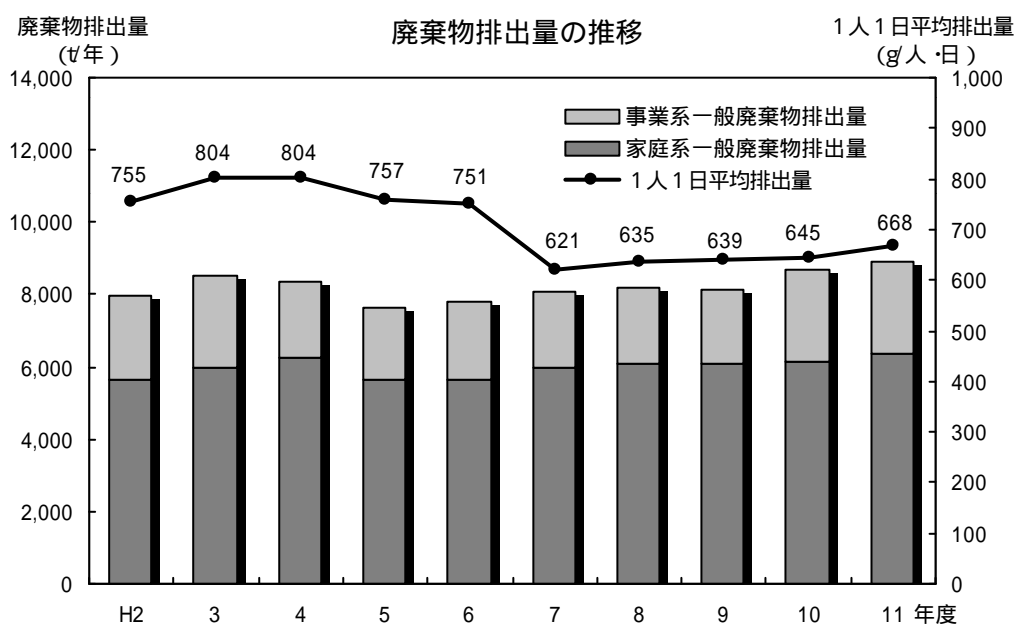
### 3. 生活環境

#### (1) ごみ・リサイクル

本市におけるごみの減量化・リサイクル対策への取組は積極的で、全国的にも高レベルにあります。現在は、7種区分13分類による分別収集を実施し、有機肥料の生産、固形燃料の生産、有価物の回収などを積極的に推進しています。

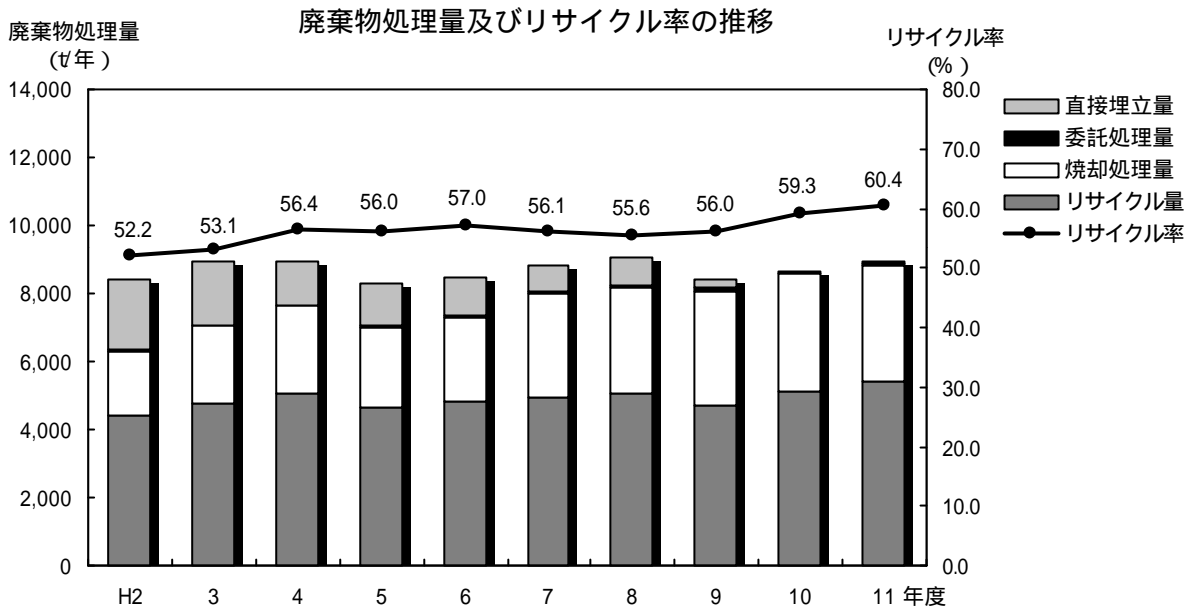
平成11年度の1人1日平均廃棄物排出量は668gと全国的にみて低い数字となっています。しかし近年、ごみの減量についてはやや頭打ちの傾向がみられ、平成8年度以降はわずかながら増加傾向に転じています。一方、リサイクル率については、ごみの細分別化の効果がみられ、平成11年度では60.4%となっています。

平成11年度現在、本市は焼却施設、有機物供給センター及び固形燃料生産施設の3つの中間処理施設と富丘埋立処分場を有しています。廃棄物・リサイクル対策としては、平成11年度に「リサイクル・タウン計画」として一般廃棄物処理基本計画の見直しを行っており、平成24年度の目標年次に向けて、段階的に16種区分23分類の分別収集に移行する計画です。また、北海道「ごみ処理広域化計画」に基づいて、平成10年度に「富良野生活圈一般廃棄物広域分担処理基本計画」が策定されおり、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町及び占冠村の5市町村において、広域処理に取り組んでいます。



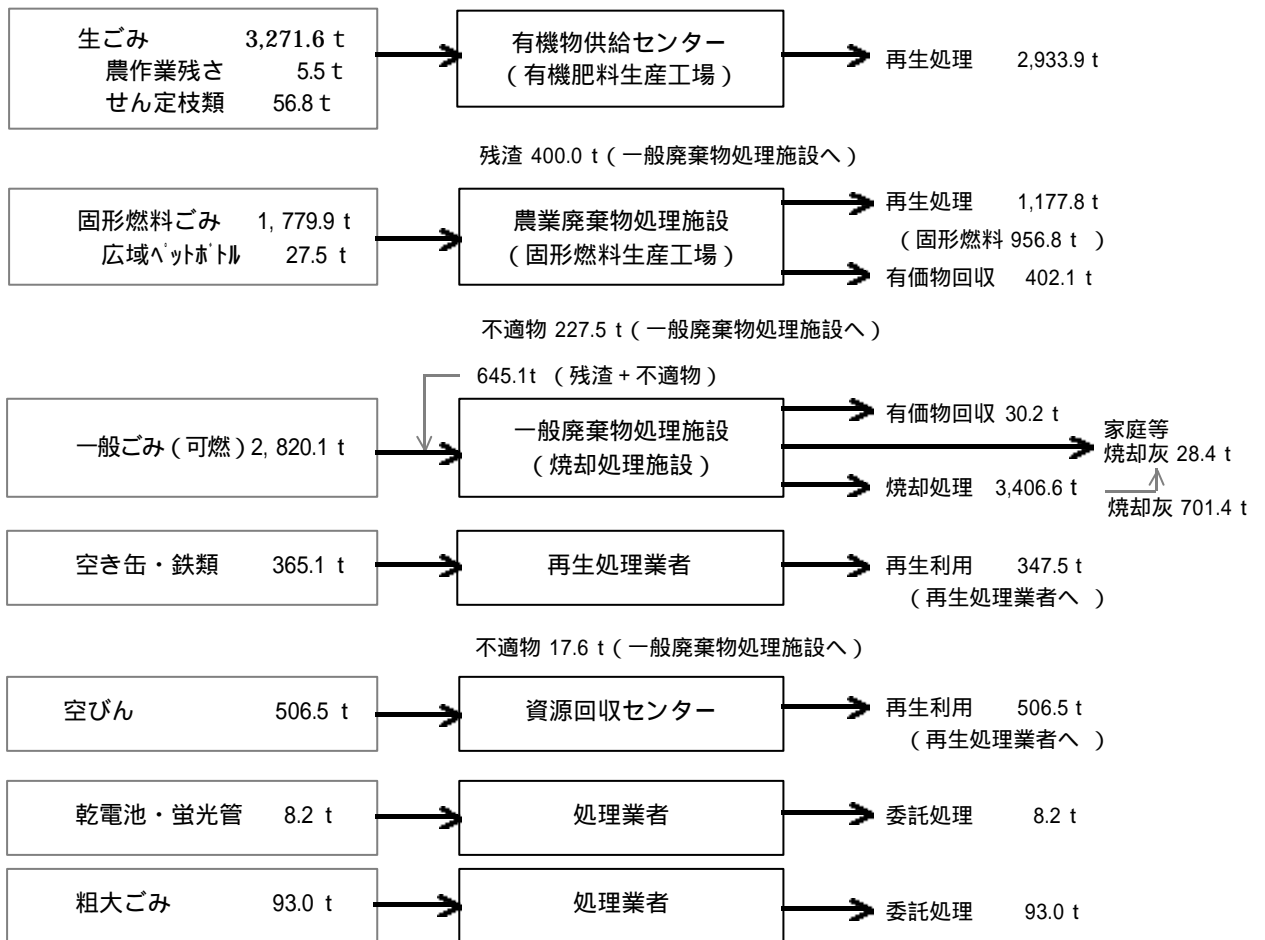
注) 1人1日平均排出量 = 家庭系一般廃棄物排出量 / 計画収集区域人口 / 年間日数

資料: 富良野市市民部「平成12年度 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要」



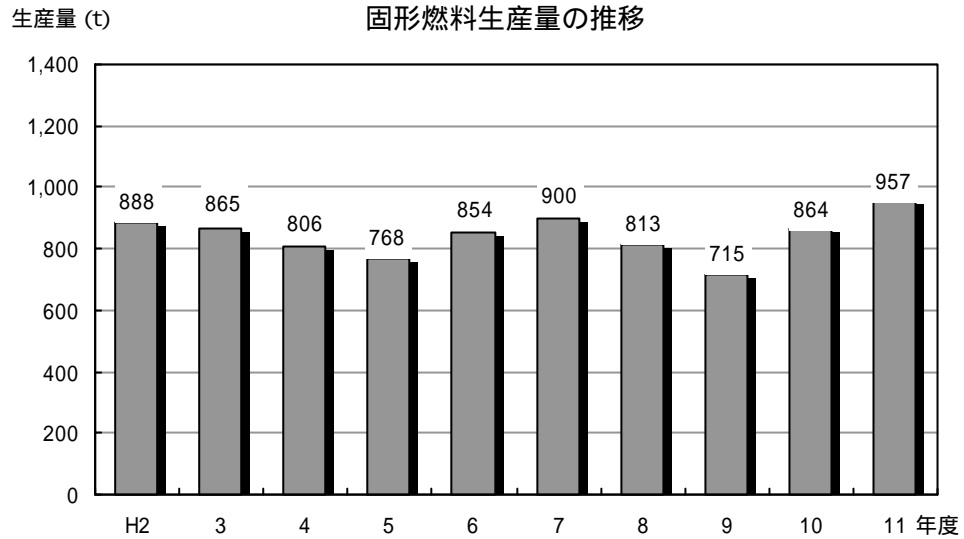
注) リサイクル率 = リサイクル量 / ごみ処理量合計  
 資料: 富良野市市民部「平成 12 年度 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要」

### 一般廃棄物処理フロー及び平成 11 年度処理実績



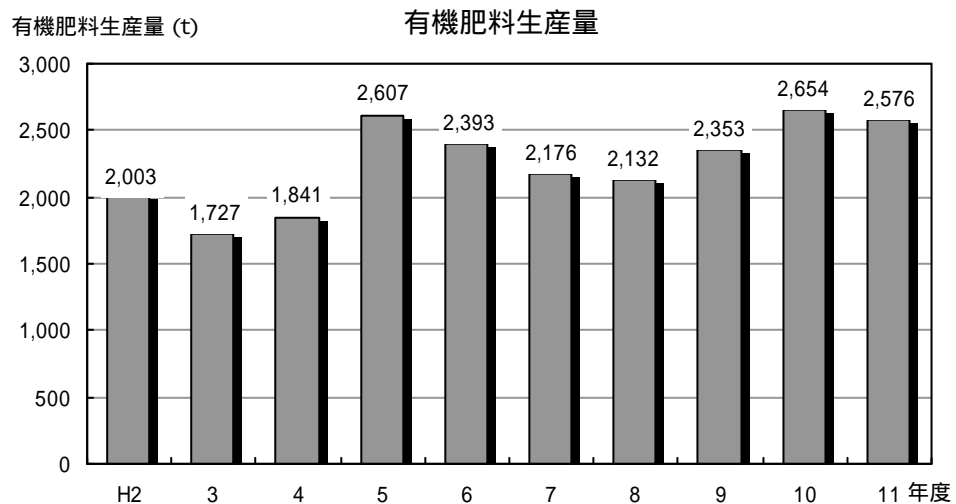
資料: 富良野市市民部「平成 12 年度 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要」

本市では、昭和 63 年度から固形燃料生産施設において固形燃料ごみを固形燃料化しており、平成 11 年度には 957 t の固形燃料を生産しています。



資料：富良野市市民部 「平成 12 年度 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要」

本市では、昭和 60 年度から有機物供給センターにおいて、生ごみ、農作物残渣、パークを原料として有機肥料（バイオソイル）の生産を行い、農地に還元しています。平成 11 年度には、2,576 t の有機肥料を生産しています。

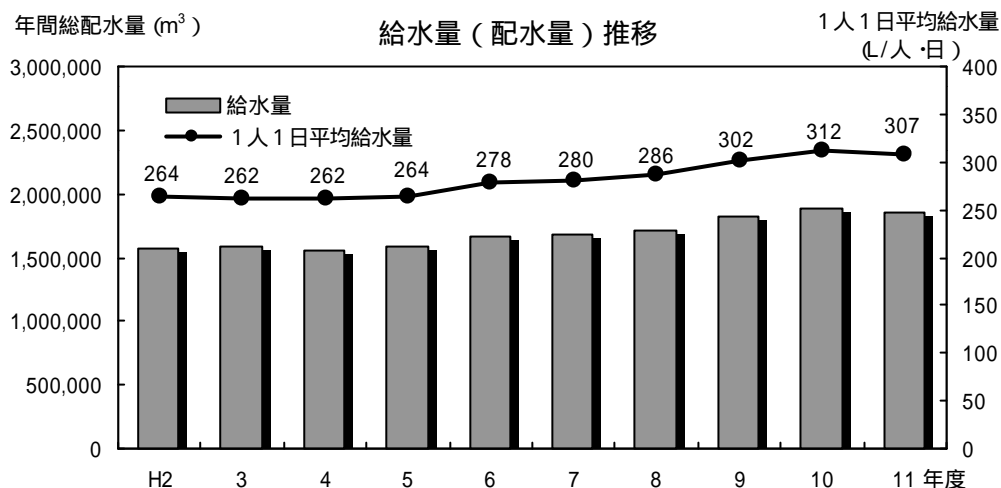


資料：富良野市市民部 「平成 12 年度 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要」

## (2) 資源・エネルギー

### 上水道

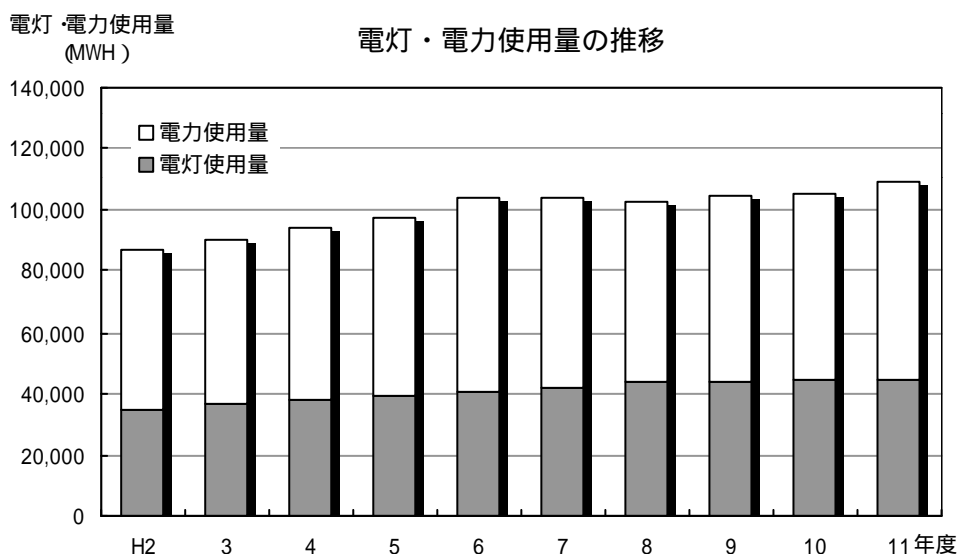
平成 11 年度現在、上水道、簡易水道合わせて総人口に対する普及率は 74% となっています。上水道による給水量（配水量）の推移をみると、平成 11 年度ではやや減少していますが、長期的には増加する傾向にあり、1 人 1 日平均給水量も増加しています。



資料：富良野市水道課

### 電気

市内における電灯・電力使用量の推移をみると、年度によって多少の増減はみられますが、長期的には電灯使用量（一般家庭や街路灯、小規模事業所）、電力使用量（業務用、小口電力、大口電力、その他電力）ともに増加する傾向がみられます。



資料：北海道電力㈱ 富良野営業所

## 4. 快適環境

### (1) 景観

本市には、自然公園法に基づく大雪山国立公園、北海道自然公園条例に基づく富良野芦別道立自然公園など、恵まれた自然景観資源を有しています。また、環境庁が実施した第3回自然環境保全基礎調査では、11ヶ所の自然景観資源が選定されています。

市民アンケートで、本市の好きな景色や景観について尋ねたところ、市民、小中学生とも「山なみ景観」という回答が最も多く、そのほか「丘陵畑景観」「森林景観」「水辺景観」など自然景観を好む傾向がみられました。一方、自分の身のまわりの環境が非常に悪い、または、悪い理由を尋ねたところ、「犬猫の糞が多い」「ごみなどが投棄されている」「タバコ・ごみのポイ捨てが目立つ」など、美観に関わる回答が多くみられました。

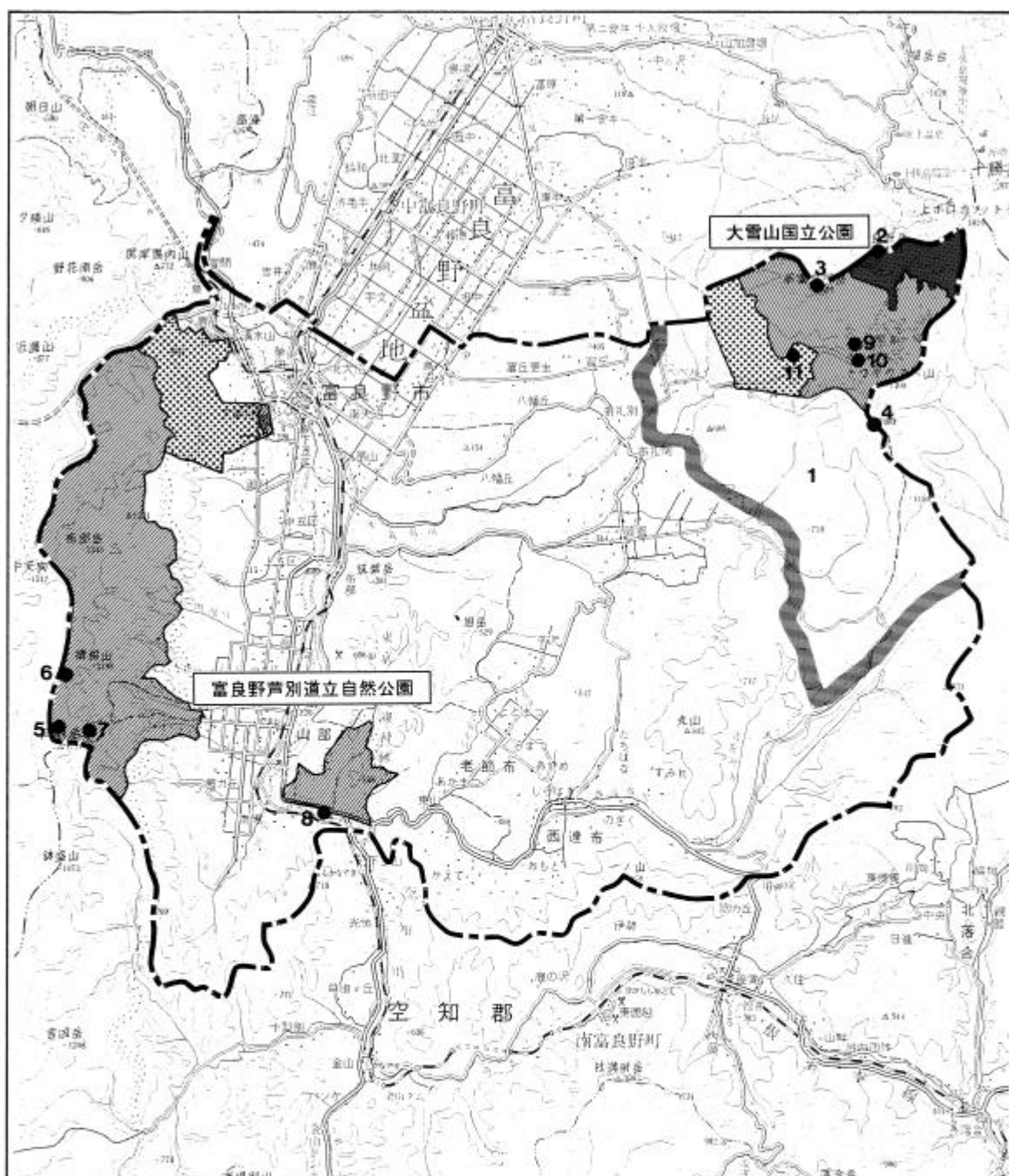
景観に関する施策としては、平成6年度に「ふらの 景観ガイドプラン」を策定し、「豊かな自然・たゆまぬ進歩・さわやかな交流がささえる 創造的な田園都市」をトータルテーマとして掲げ、様々な景観整備手法を示しています。また、平成12年度に「まちをきれいにする条例」を制定し、ポイ捨てに対する罰則規定も含め、市民や事業者のモラルの向上を求めています。

自然景観資源

1	十勝連峰火山帯（火山群）
2	富良野岳（火山）
3	前富良野岳・旭岳（火山）
4	大麓山火山（火山）
5	芦別岳北尾柄根（特徴的な稜線）
6	芦別岳夫婦岩（岩峰・岩柱）
7	屏風岩（岩峰・岩柱）
8	空知川・東大演習林付近（峡谷・溪谷）
9	勝竜の滝（滝）
10	赤岩の滝（滝）
11	不動の滝（滝）

注）番号は、次頁の「自然景観資源」に対応している。

資料：環境庁「第3回自然環境保全基礎調査 北海道自然環境情報図（上川）」  
（昭和59～61年度調査）



※●の番号は、前頁の自然景観資源に対応

凡 例

- 市町村界
- 特別保護地区
- 特別地域
- 普通地域

国立公園及び  
道立自然公園



1:200,000



自然景観資源及び自然公園法に基づく国立公園等の指定状況

資料：環境庁「第3回自然環境保全基礎調査 北海道自然環境情報図(上川)」(昭和59～61年度調査)  
北海道環境生活部資料



### 富良野市の好きな景色や景観（上位3位）

	1 位		2 位		3 位	
市 民	山なみ景観	33.0%	丘陵畑景観	21.6%	森林景観	17.9%
小学生	山なみ景観	30.6%	森林景観	22.0%	水辺景観	18.7%
中学生	山なみ景観	29.2%	水辺景観	19.3%	森林景観	19.0%

資料：北海道富良野市「富良野市環境基本計画 基礎調査報告書（アンケート調査結果）」

### まわりの環境が「非常に悪い」「悪い」理由（上位3位）

	1 位		2 位		3 位	
市 民	犬猫の糞が多い	16.9%	ごみなどが投棄されている	12.5%	タバコ・ごみのポイ捨てが目立つ	12.2%
小学生	タバコやごみのポイ捨てをする人が多い	23.8%	川などの水辺が汚れている	15.5%	ごみなどが捨てられている	14.3%
中学生	ごみなどが捨てられている	19.1%	タバコやごみのポイ捨てをする人が多い	16.4%	川などの水辺が汚れている	11.2%

資料：北海道富良野市「富良野市環境基本計画 基礎調査報告書（アンケート調査結果）」

## (2) 身近な自然

本市には、「北海道自然環境保全指針」により「身近な自然地域」として選定された地域が3ヶ所（麓郷の森、東大演習林樹木園及び鳥沼公園）あるほか、市内のみならず道内外からも多くの観光客が訪れるレクリエーション地が多数分布しています。

都市公園については、平成12年度現在、53ヶ所（33.56ha）が整備されており、種類別にみると、基幹公園が49ヶ所（22.36ha）、特殊公園が1ヶ所（9.60ha）、都市緑地が3ヶ所（1.60ha）となっています。1人あたりの都市公園面積は18.84m<sup>2</sup>であり、北海道平均の26.7m<sup>2</sup>を下回っていますが、全国平均の7.9m<sup>2</sup>及び国が平成14年度の目標値として掲げている9.5m<sup>2</sup>を上回っている状況です。市街地における公園や緑地については、平成12年度に「都市緑地保全法」に基づいて「富良野市緑の基本計画」が策定され、市街地における緑地の保全・緑化の推進に関する施策が示されています。この計画では、平成22年度における1人あたりの都市公園面積の目標値として114.84m<sup>2</sup>を掲げています。

水辺については、これまで治水対策事業を主眼に置いた河川改修がなされてきましたが、今後は親水の観点から改めて水辺環境を整備することが望まれています。

市民アンケートにおいて、本市の環境面から考えて好きな場所、良いと思う場所を尋ねたところ、山部自然公園や鳥沼公園のように、自然を活かした公園を好む傾向がみられます。

主なレクリエーション地

原始ヶ原
麓郷の森
鳥沼公園
清水山ぶどうヶ丘公園
朝日ヶ丘公園
東大演習林 樹木園
ラベンダーの森
富良野スキー場
山部自然公園太陽の里

資料：(社)ふらの観光協会

都市公園の開設状況及び目標値

区 分			平成 12 年度			平成 22 年度		
			整備量		1人あたり 公園面積 (m <sup>2</sup> /人)	整備量		1人あたり 公園面積 (m <sup>2</sup> /人)
			箇所	面積(ha)		箇所	面積(ha)	
基幹 公園	住区 基幹 公園	街区公園	24	4.97	2.79	32	7.34	3.97
		ポケットパーク	22	1.69	0.95	36	2.64	1.43
		近隣公園	1	1.60	0.90	2	3.60	1.95
		地区公園	1	3.60	2.02	2	7.60	4.11
	都市 基幹 公園	総合公園	1	10.50	5.90	1	10.50	5.68
		運動公園				1	7.60	4.11
	基幹公園計			49	22.36	12.55	74	39.28
特殊 公園	風 致 公 園		1	9.60	5.39	1	9.60	5.19
	動植物公園							
	歴 史 公 園							
	墓 地							
	そ の 他							
特殊公園計			1	9.60	5.39	1	9.60	5.19
広 場 公 園								
広 域 公 園								
緩 衝 緑 地						1	0.32	0.17
都 市 緑 地			3	1.60	0.90	5	163.26	88.25
緑 道								
都 市 林								
国の設置によるもの								
都市公園計			53	33.56	18.84	81	212.46	114.84

注) 都市計画区域における整備量を示す。

資料：富良野市都市整備課



### (3) 騒音、振動及び悪臭

現在、騒音、振動及び悪臭については測定を行っていません。しかし、近年は、「1. 自然的・社会的条件(7) 交通体系」の項で述べたように、騒音や振動の発生源となる自動車への依存度が高まっており、市民アンケートにおいても、自分の身のまわりの環境が非常に悪い、または、悪い理由として「車や工場などの音がうるさい」「悪臭がする」という回答もみられます。また、平成2～10年度の公害に関する苦情件数(総数27件)をみると、騒音・振動が6件、悪臭が4件と比較的多くみられます。このような現状を踏まえて、今後は、発生源対策を行うとともに、状況に応じて測定・監視を行う必要があります。

騒音、振動及び悪臭に対する市民意識

	車や工場などの音がうるさい	悪臭がする
市民	10.6 %	5.9 %
小学生	6.0 %	2.4 %
中学生	10.5 %	1.3 %

注) 回答は、自分の身のまわりの環境が非常に悪い、または、悪い理由として3～4項目選択した場合の結果を示す。

資料：北海道富良野市「富良野市環境基本計画 基礎調査報告書(アンケート調査結果)」

## 5 . 地球環境

近年は、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、熱帯林の減少、砂漠化、野生生物種の減少、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動、開発途上国の公害問題など多様な地球環境問題が顕在化しています。ここでは本市と関連が深い地球環境問題である地球温暖化、オゾン層の破壊及び酸性雨（酸性雪）に焦点を絞って、現状を把握します。

### (1) 地球温暖化

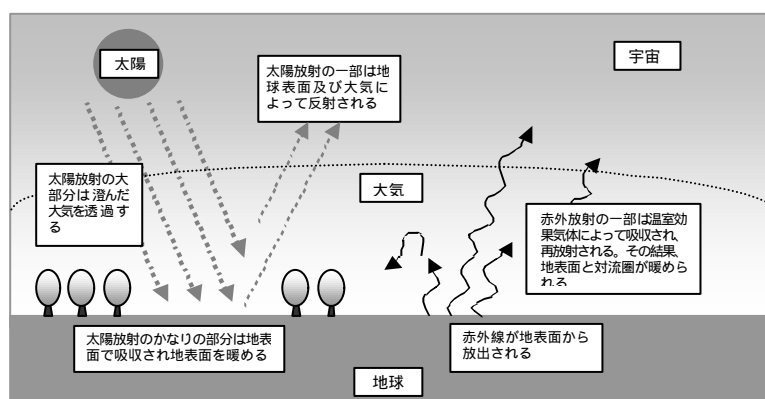
地球温暖化問題は、人類の生存基盤に深刻な影響を及ぼすおそれがある重要な問題です。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告によると、現状のままで温室効果ガスの排出が続いた場合、将来、急激な気温の上昇が生じ、その結果、海面の上昇や気候の変化、人類の居住環境への脅威など、自然、経済及び社会のシステムに重大な影響がもたらされると予想されています。

我が国では、温室効果ガスの約 94% が二酸化炭素であると言われており（北海道では約 92%）、アメリカ、中国、ロシアに続いて世界第 4 位の二酸化炭素排出国となっています（1人当たりの排出量でみると、世界第 6 位）。また、1997（平成 9）年度における北海道の温室効果ガス排出量が全国に占める割合は 5.9% であり、1990（平成 2）年度から 1997（平成 9）年度までの排出量の伸び率は 9.1% となっています。1997（平成 9）年度の 1人当たり温室効果ガス排出量（炭素換算）をみると、全国が 2.89 t である一方、北海道は 3.74 t と約 1.3 倍の排出量がみられます。

平成 11 年 4 月に施行された「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、地球温暖化対策の取組として、国、地方公共団体、事業者及び国民それぞれの責務を明らかにするとともに、各主体の取組を促進するための法的枠組みを定めています。北海道では、平成 12 年度に「北海道地球温暖化防止計画」を策定し、「2010（平成 22）年度における温室効果ガス排出量を 1990（平成 2）年度の排出量に比べて 9.2% 削減すること」を目標として掲げています。本市においても、平成 13 年度に、温室効果ガス排出量の実態調査を実施するとともに、「地球温暖化防止計画」を策定する計画です。

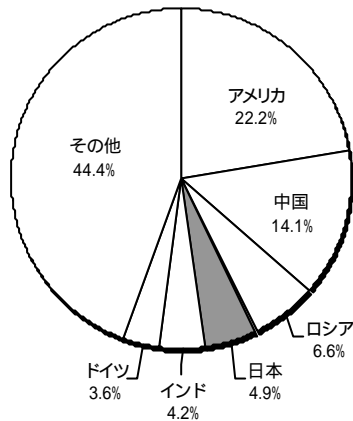
地球温暖化はわたしたちの日常生活や事業活動に起因しており、身近な暮らしの中で省資源や省エネルギーに取り組んでいくことが必要です。

温室効果のメカニズム



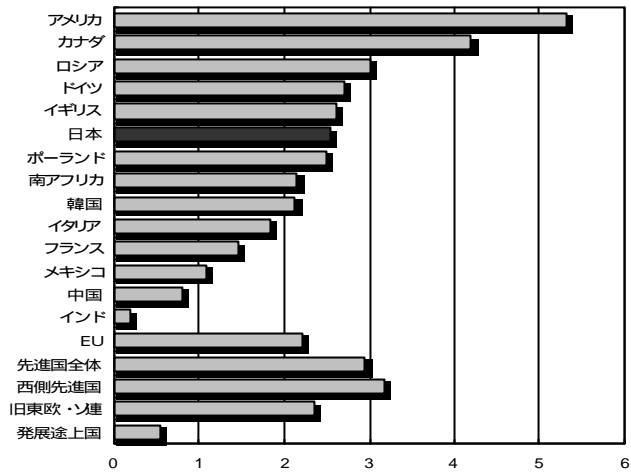
資料：環境庁「平成 12 年版 環境白書」

世界の二酸化炭素排出量（1996年）



資料：環境庁「平成12年版 環境白書」

各国1人当たり二酸化炭素排出量（1996年）



資料：環境庁「平成9年版 環境白書」

炭素換算トン/人

温室効果ガス排出量（全国との対比）

単位：炭素換算トン

		1990 (平成2)年度 (A)	1997 (平成9)年度 (B)	伸び率 (%) (B/A)
北海道	総排出量	19,575,014	21,362,589	9.1
	1人当たり排出量	3.47	3.74	7.8
全国	総排出量	333,590,000	362,280,000	8.6
	1人当たり排出量	2.70	2.89	7.0

資料：北海道環境生活部環境室環境政策課「北海道地球温暖化防止計画」

## (2) オゾン層の保護

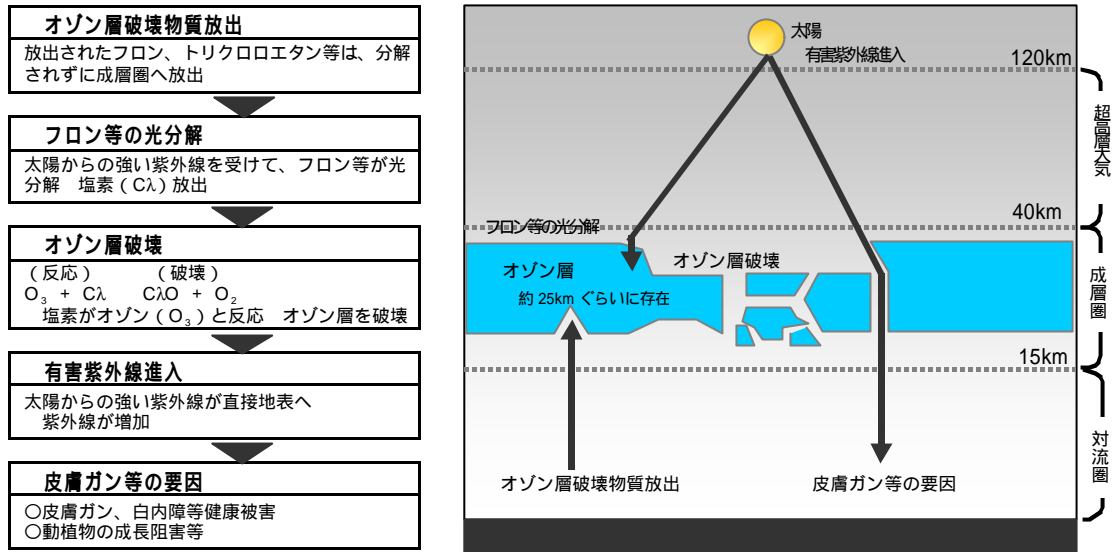
地球を取り巻く成層圏には“オゾン層”と呼ばれる層があります。オゾン層は太陽光に含まれる有害な紫外線の大部分を吸収し、地球上の生物を守っています。このオゾン層がフロンなどの人工の化学物質によって破壊されていることが、近年、明らかになってきました。

オゾンを破壊するフロンは、洗浄剤や冷却剤、発泡剤、噴射剤などとして広く利用されてきました。私たちの身近なところでは、冷蔵庫やクーラーなどの冷却剤として、あるいは、整髪剤などのスプレーの噴射剤として普通に使用されてきました。冷蔵庫やクーラーを廃棄、破砕した時やスプレーを使用した時に、フロンは大気中に放出され成層圏に達し、オゾン層を破壊します。

昭和63年に「特定物質の規制などによるオゾン層の保護に関する法律」(オゾン層保護法)が制定され、現在では特定フロンなどの多くは生産が廃止されていますが、すでに生産された製品については、フロンの適切な回収・破壊処理を推進することが重要です。

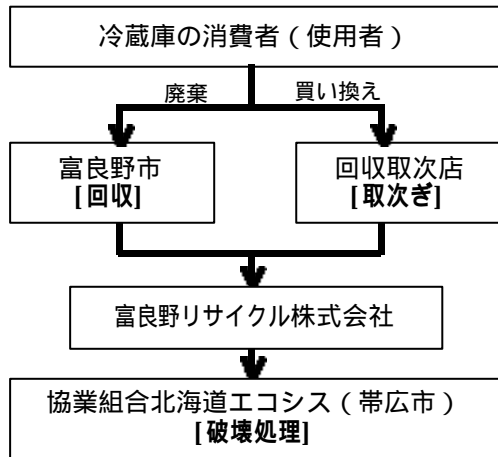
本市では、平成8年度から廃冷蔵庫のフロンの回収ルートが確立しており、平成11年度には728台の廃冷蔵庫が処理されています。なお、平成13年4月1日から「家電リサイクル法」が本格施行され、使わなくなったテレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンは、過去に購入、または買い換えをする家電小売店が有料で引き取り、家電メーカーが新しい製品の材料や熱源としてリサイクルするという流れになります。

### 大気の構造とオゾン層破壊のメカニズム



資料：北海道環境生活部環境室環境政策課「北海道環境基本計画」

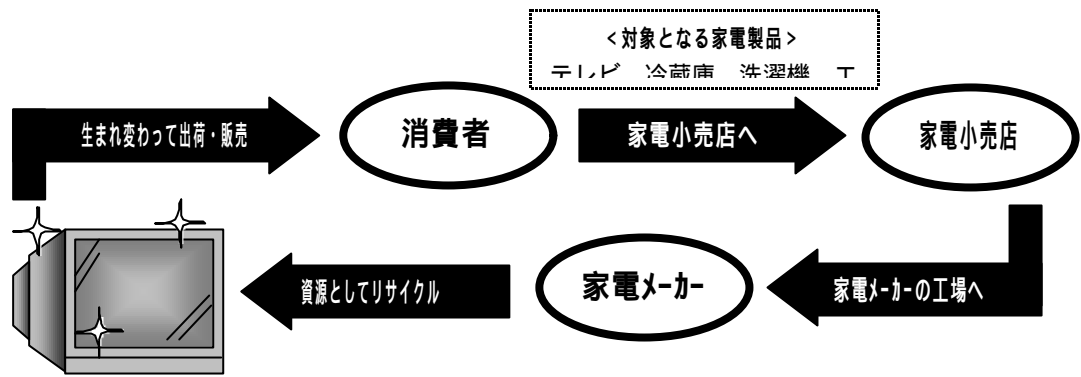
### 富良野市におけるフロン回収ルート（冷蔵庫）



### 冷蔵庫の回収台数

年度	回収台数
平成 8 年度	429 台
平成 9 年度	873 台
平成 10 年度	548 台
平成 11 年度	728 台

「家電リサイクル法」によるリサイクルの流れ



(3) 酸性雨（酸性雪）

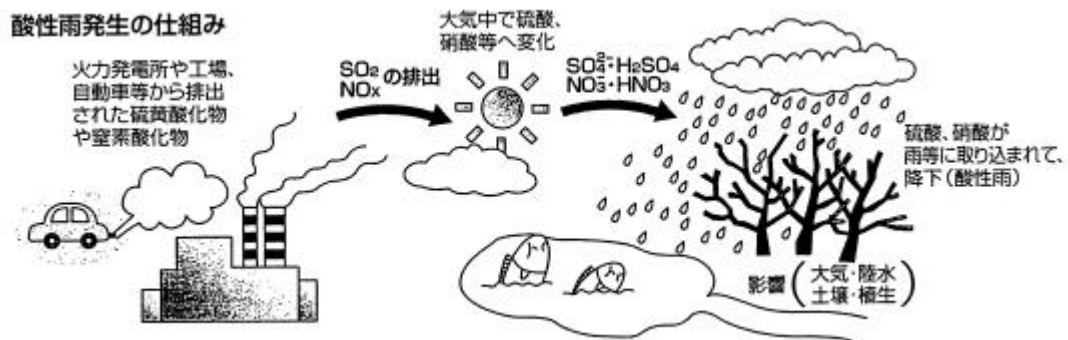
酸性雨（以下、酸性雪を含む）とは、化石燃料などを燃焼した時に生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中に取り込まれて生じる酸性の雨などで、通常、pH5.6以下のものをいいます。国境を越えて影響を及ぼすため、国際的な環境問題となっています。

酸性雨が降ると、石造建築物の溶解、森林や農作物の枯死、湖沼・井戸水の酸性化、健康被害などが生じます。欧米ではすでに、湖沼や森林などの生態系に深刻な影響を受けています。

我が国でも、昭和58年から始められた酸性雨対策調査結果から、酸性雨が降っていることが明らかになりましたが、酸性雨による生態系などへの影響は明らかではなく、また、湖沼や土壌については酸性化の傾向は認められませんでした。しかし、今後も酸性雨が降り続ければ、生態系などに何らかの影響を及ぼすおそれがあります。道内では、昭和59年から札幌市、昭和63年から苫小牧市東部（静川）及び西部（旭町）で酸性雨の測定を行っており、札幌市ではpH4.7～5.9、苫小牧西部ではpH4.7～5.2、苫小牧東部ではpH4.5～5.1という値になっています。本市内では、東大演習林で酸性雨の測定を行っており、平成5～6年に観測された全降水のpH平均値は5.18と、酸性雨が確認されています。

酸性雨を防止するためには、硫黄酸化物や窒素酸化物の主要発生源である工場・事業場や自動車に対する対策を進める必要があります。

酸性雨発生のしくみ



資料：北海道環境生活部環境室環境政策課「北海道環境基本計画」



## 6. 環境意識

本市では、環境に対する認識を把握することを目的として、平成 11 年度に市民、事業者及び小中学生を対象にアンケート調査を実施しています( 詳細については、「富良野市環境基本計画 基礎調査報告書( アンケート調査結果)」を参照)。ここでは、その調査結果から、市民、事業者及び小中学生の環境意識を把握します。

アンケート対象者数、回収数及び抽出方法

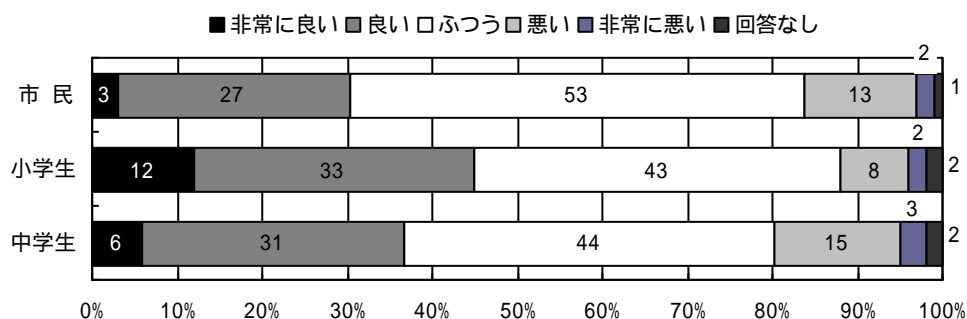
	アンケート数	回収数	抽出方法
市民	1,099	513	富良野市 40 地区の各地区において住民基本台帳をもとに 1 名 / 20 名で抽出
事業者	100	55	富良野市商工観光課資料より抽出
小学生	280	276	富良野市 11 小学校の 5 年生全員
中学生	292	285	富良野市 7 中学校の 2 年生全員

### (1) 環境保全に対する意識や取組

#### 身のまわりの環境の状況

市民及び小中学生を対象に、身のまわりの環境の状況について尋ねたところ、「非常に良い」「良い」という回答は小学生が 45% と最も多く、次いで中学生( 37%)、市民( 30%) の順となっています。その理由としては、公害がない、自然が豊か、景色が良いといった内容が多くみられます。一方、環境の状況が「非常に悪い」「悪い」という回答は 1 ~ 2 割程度みられ、中学生( 18%)、市民( 15%)、小学生( 10%) の順となっています。その理由としては、ポイ捨てなどの美観やマナー、騒音、空き地の荒地化に関わる内容が多くみられます。

身のまわりの環境の状況



身のまわりの環境が「非常に良い」「良い」理由（上位5位）

	市 民		小学生		中学生	
	理由	割合	理由	割合	理由	割合
1位	空気がきれい	17.3%	森林が多く緑が豊か	27.2%	空気がきれい	21.1%
2位	静かである	15.2%	いろいろな動物や植物がいて、自然が豊かである	23.6%	森林が多く緑が豊か	19.3%
3位	森林が多く緑が豊か	13.8%	空気がきれい	23.6%	いろいろな動物や植物がいて、自然が豊かである	14.4%
4位	景色・景観がよい	12.1%	景色・景観がよい	15.6%	景色・景観がよい	12.3%
5位	陽当たりがよい	11.7%	静かである	8.3%	静かである	11.2%

身のまわりの環境が「非常に悪い」「悪い」理由（上位5位）

	市 民		小学生		中学生	
	理由	割合	理由	割合	理由	割合
1位	犬猫の糞が多い	8.4%	タバコやごみのポイ捨てをする人が多い	7.2%	ごみなどが捨てられている	10.2%
2位	ごみなどが投棄されている	6.2%	川などの水辺が汚れている	4.7%	タバコやごみのポイ捨てをする人が多い	8.8%
3位	タバコ・ごみのポイ捨てが目立つ	6.0%	ごみなどが捨てられている	4.3%	川などの水辺が汚れている	6.0%
4位	車の音など騒音がある	5.3%	犬猫の糞が多い	3.3%	車や工場の音がうるさい	5.6%
5位	空き地が手入れされず、雑草等が繁茂している	4.5%	森林や緑が少ない、車や工場の音がうるさい	1.8%	空き地が手入れされず、雑草等が繁茂している	4.9%

関心のある環境問題

市民及び小中学生を対象に、関心のある環境問題について尋ねたところ、市民は「ダイオキシン問題」が46.6%と最も多く、次いで「農薬・添加物等による食品汚染」「廃棄物問題」「地球温暖化」「オゾン層の破壊」となっており、従来の公害問題より、社会問題として取り上げられている環境問題や地球環境に対する関心が高い傾向がみられます。小中学生の結果をみると、ダイオキシンや廃棄物問題のほかに、水質汚濁や大気汚染、動植物の減少や絶滅といった自然環境に関わる問題への関心も高くなっています。

関心のある環境問題（上位5位）

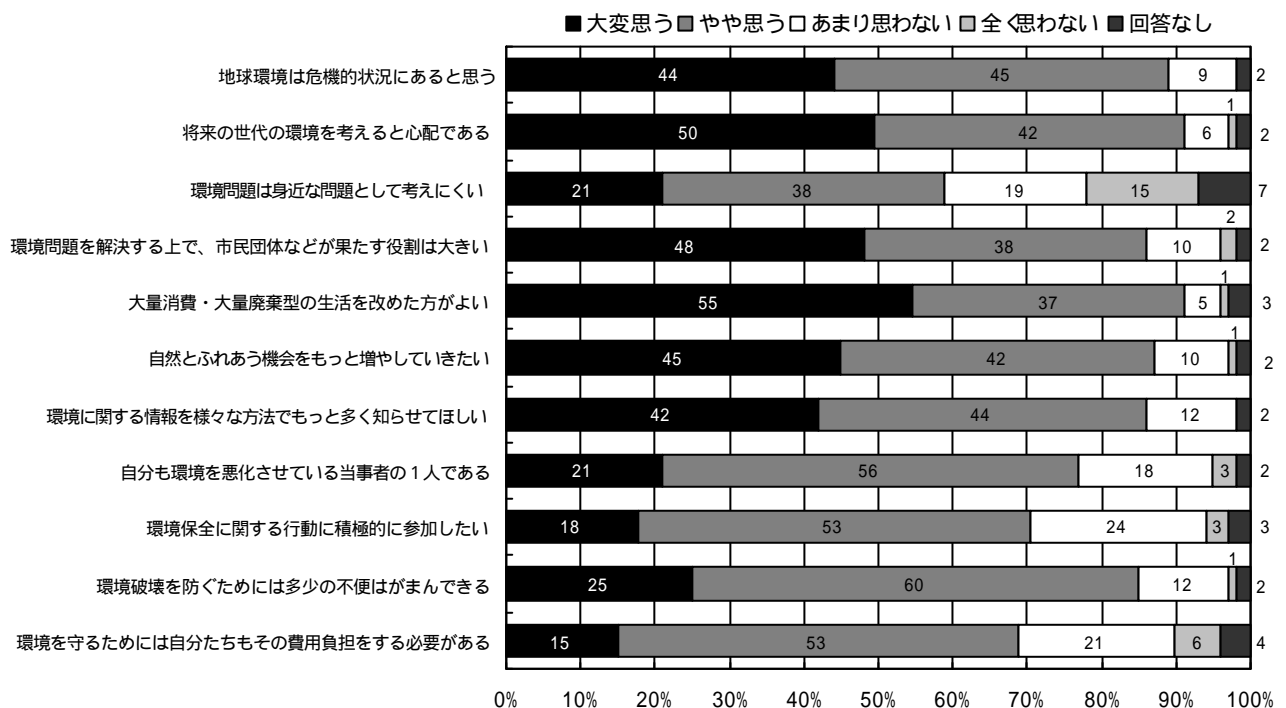
	市 民		小学生		中学生	
	理由	割合	理由	割合	理由	割合
1位	ダイオキシン問題	46.6%	ダイオキシン問題	63.0%	自動車等による大気汚染	54.0%
2位	農薬・添加物等による食品汚染	45.6%	川などの水質汚濁	60.5%	オゾン層の破壊	54.0%
3位	廃棄物問題	42.9%	動植物の減少や絶滅	54.7%	川などの水質汚濁	52.3%
4位	地球温暖化	33.1%	自動車等による大気汚染	54.7%	動植物の減少や絶滅	52.3%
5位	オゾン層の破壊	29.6%	廃棄物問題	50.7%	廃棄物問題	50.5%

## 環境問題に対する考え方

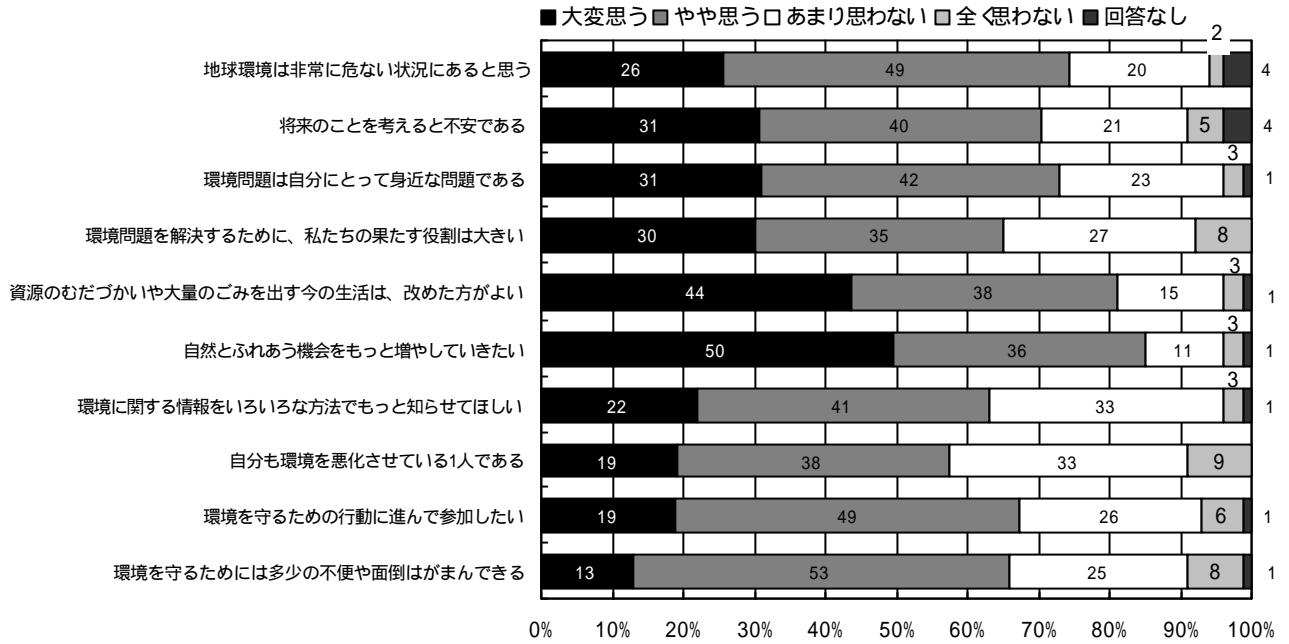
市民及び小中学生を対象に、環境問題に対する考え方について尋ねたところ、「地球環境は危機的状況にあると思う」「将来の世代の環境を考えると心配である」という地球環境や将来の環境に対して危惧感を抱いている回答は、市民約 9 割、小学生 7～8 割、中学生 8～9 割と多くみられます。また、環境問題を身近な問題として捉えている市民は 3 割強と少ない一方、小中学生の 7～8 割は身近な問題として感じています。自分が環境を悪化させているという意識は市民が 77%と最も高く、小学生が 57%、中学生が 65%となっています。

環境問題への取組意識についてみると、「大量消費・大量廃棄型の生活を改めた方がよい」「環境保全に関する行動に積極的に参加したい」「環境破壊を防ぐためには多少の不便はがまんできる」という自発的な取組に対する意識は、市民の方が小中学生より高い傾向がみられます。

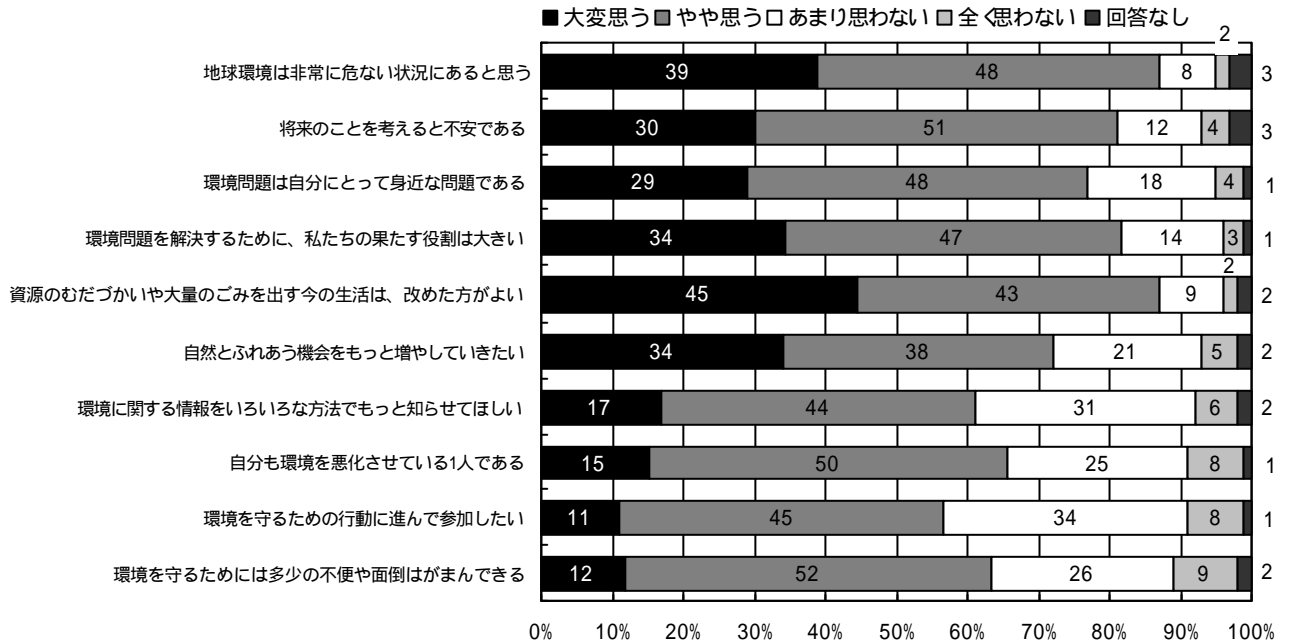
環境問題に関する考え方（市民）



### 環境問題に関する考え方（小学生）



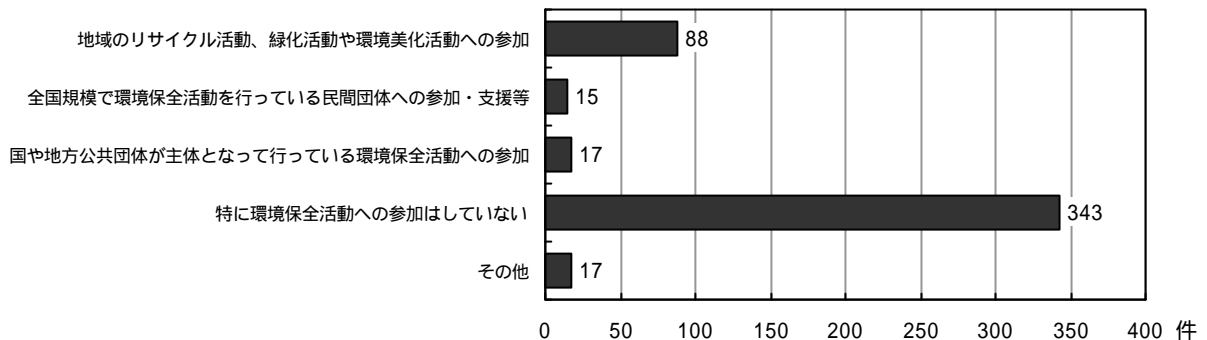
### 環境問題に関する考え方（中学生）



## 環境保全活動への参加

市民に環境保全活動への参加状況について尋ねたところ、「特に環境保全活動への参加はしていない」という回答が343件と全体の7割以上を占めています。「環境問題に対する考え方」で示したように、「環境保全に関する行動に積極的に参加したい」という市民が約7割みられる一方、実際に何らかの形で環境保全活動を行っている市民は3割弱となっており、環境保全に参加したいという意識は持ちつつも、実際の活動までには結びつかない傾向がみられます。

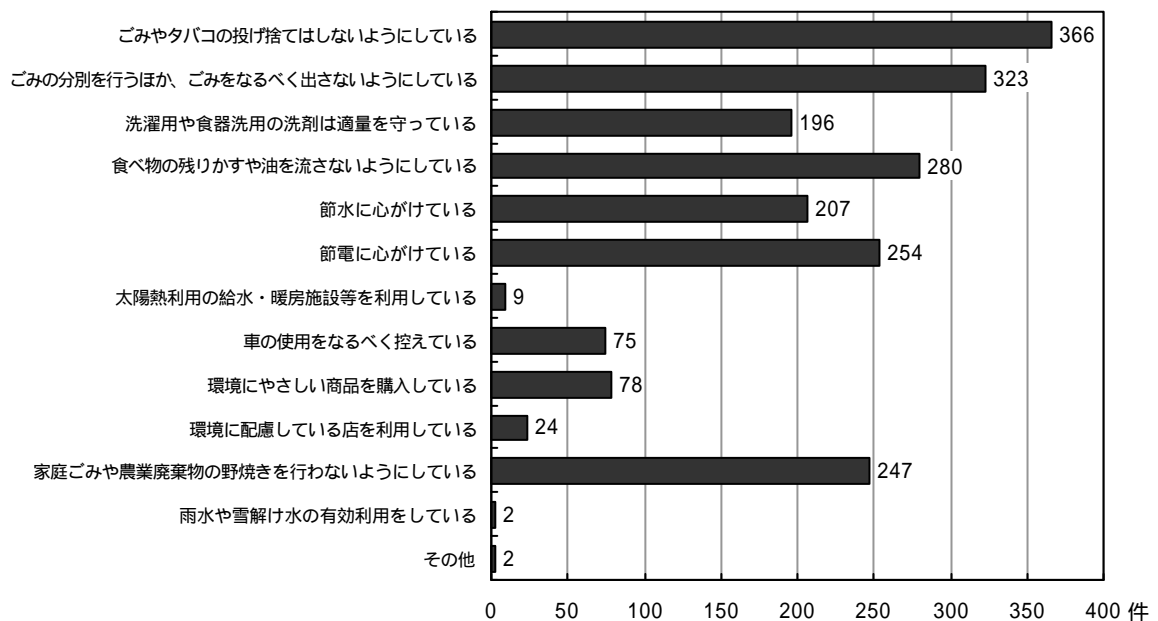
環境保全活動への参加状況（市民） 複数回答可



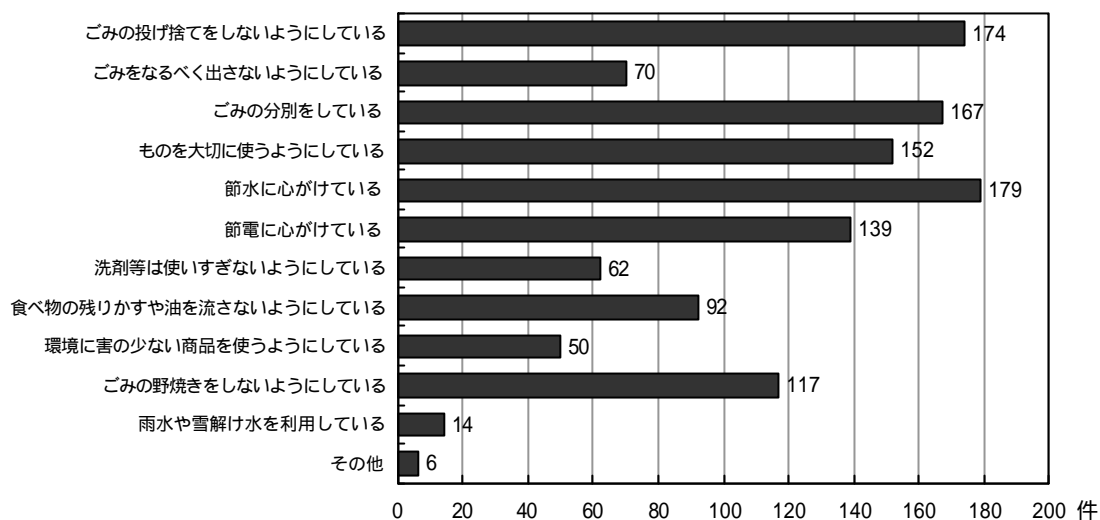
## 日常生活における環境保全への取組

市民及び小中学生を対象に、日常生活における環境保全への取組について尋ねたところ、市民、小中学生とも、ごみのポイ捨てやごみの分別、節水、節電、野焼きの防止について、積極的な取組がみられます。一方、車の使用や環境に配慮した製品の購入、雨水や自然エネルギーの利用については、取組の姿勢がやや低い傾向がみられます。

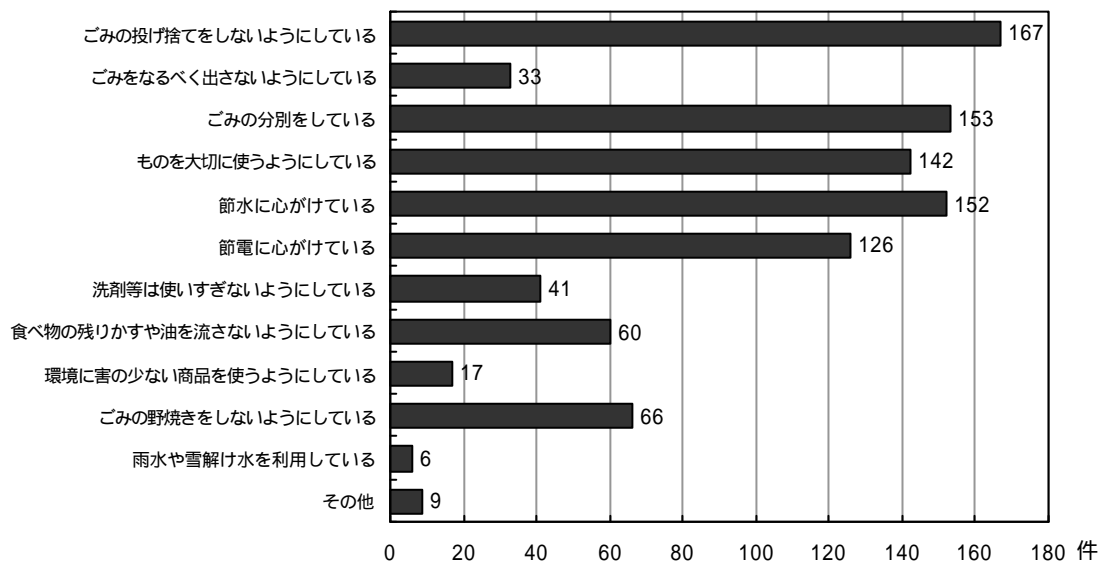
日常生活における環境保全への取組（市民） 複数回答可



日常生活における環境保全への取組（小学生） 複数回答可



日常生活における環境保全への取組（中学生） 複数回答可



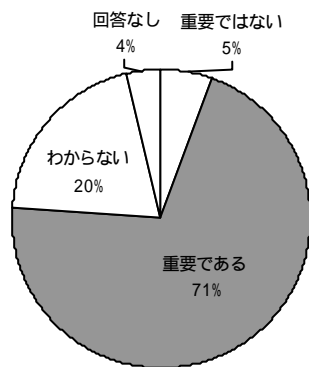
## 事業活動における環境保全への取組

事業者には事業活動における環境保全の重要性について尋ねたところ、約 7 割が重要であると考えている一方、実際に具体的な取組を行っている事業者は 47%、今後取り組む予定の事業者が 16%、今後も取り組む予定がない事業者が 33%と、環境保全に対する意識と実際の活動にやや開きがみられます。

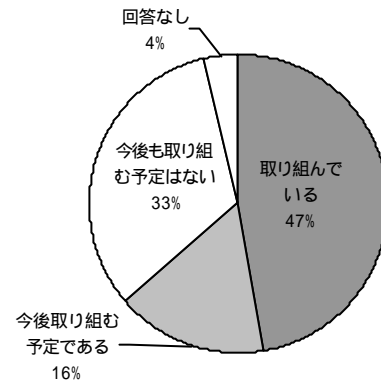
現在取り組んでいる活動や今後取り組みたい活動としては、節電、環境にやさしい製品の使用、低公害機器の使用などが挙げられています。

また、今後環境保全に取り組む予定がない理由としては、「事業活動が環境に与える影響は極めて小さいため必要ない」「必要性を感じるがコストがかかる」などが挙げられています。

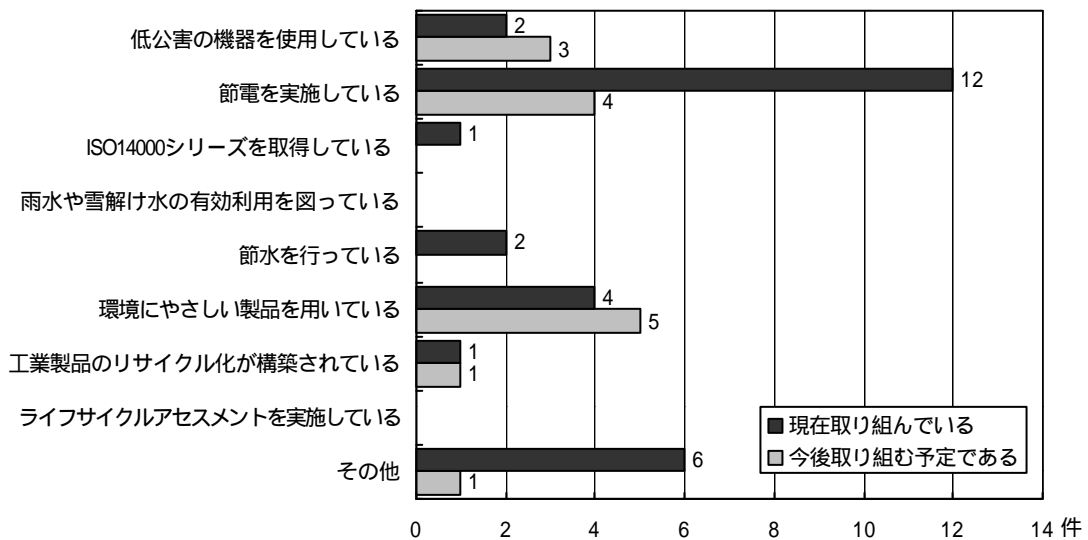
事業活動における環境保全の重要性



環境保全のための具体的な取組状況



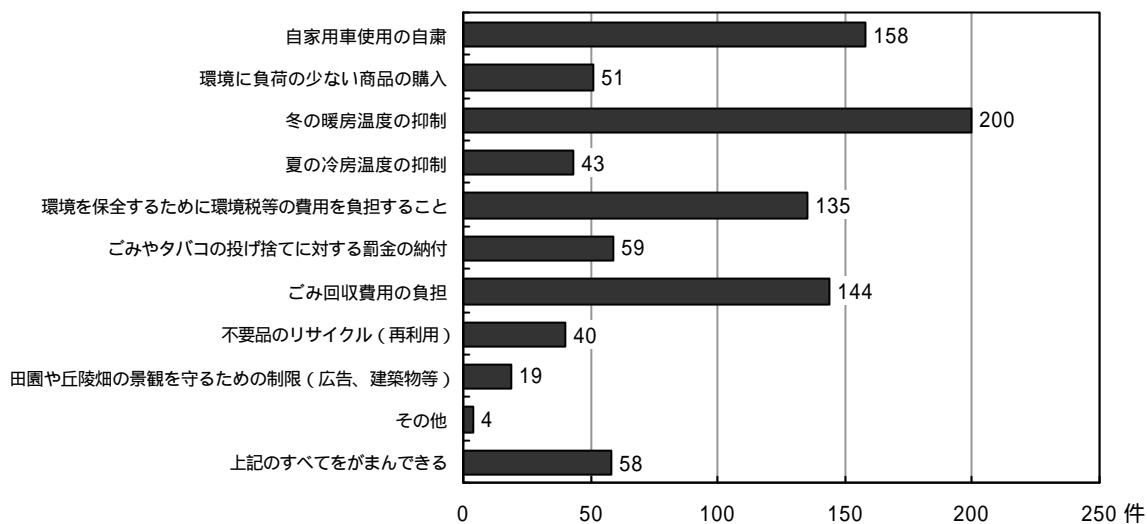
現在の取組、今後予定している取組



## 環境保全への消極的な取組

市民に基準や法令等が設けられても取り組みたくない活動について尋ねたところ、「冬の暖房温度の抑制」が最も多く、次いで「自家用車使用の自粛」「ごみ回収費用の負担」「環境税等の費用の負担」などが挙げられており、日常生活において需要の高い暖房や自動車の使用抑制、経済的な負担については、やや消極的な姿勢がみられます。

基準や法令等が設けられても取り組みたくない活動（市民） 複数回答可



## (2) 環境学習・環境教育

現在、本市では中央公民館講座や東大演習林開放事業を通して、市内の施設見学や自然観察などの環境学習の場が整備されています。また、学校においても、ボランティア清掃活動や自然観察、愛鳥活動などを通して、環境教育が実践されています。そのほか、FURANO EARTH GREEN（富良野水と緑の会）、富良野の自然に親しむ会、ふらの「地球村」など自然との触れ合いや環境保全を推進する市民団体が、様々な講座やイベントを開催しています。

今後は、市民の環境保全に対する高い意識を具体的な実践活動へと結びつけるためのきっかけの場として、環境学習の場をさらに整備するとともに、内容の充実を図ることが必要です。また、高い環境意識を持つ人間を育てるためには、躰と同様に子供の頃からの環境教育が大切であるとされており、さらに環境教育プログラムの充実をめめます。

主な市民団体の活動内容

名称	主な活動内容
FURANO EARTH GREEN （富良野水と緑の会）	学習会・研修会・講演会の開催、環境調査の実施、環境機関などへの働きかけ、例会（月1回）など
富良野の自然に親しむ会	富良野の自然に親しむ集い、富良野の自然を知る講座など（富良野市郷土館と共催）
ふらの「地球村」	定例ミーティング（月2回）、勉強会など



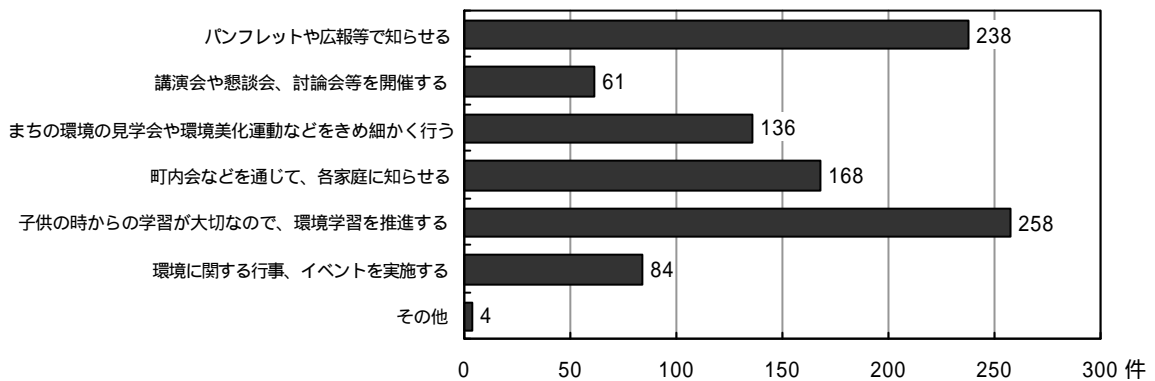
### (3) 環境情報

現在、本市では、広報やパンフレット等を配布したり、シンポジウム等を開催することによって環境情報を提供しています。

市民に環境に関する情報の提供方法を尋ねたところ、「子供の時からの学習が大切なので、環境学習を推進する」という回答が最も多く、環境教育の重要性を感じている市民が多くみられます。また、「パンフレットや広報等で知らせる」「町内会などを通じて、各家庭に知らせる」など、やや受動的な方法を望む傾向がみられる一方、自ら講演会や懇談会、討論会、イベントなどに出向いて情報を収集する方法については、やや消極的な傾向がみられます。

今後は、市民や事業者が望む環境情報を迅速かつ的確に提供できるよう、環境情報システムの整備にさらに努める必要があります。

環境に関する情報の提供方法（市民） 2つ選択



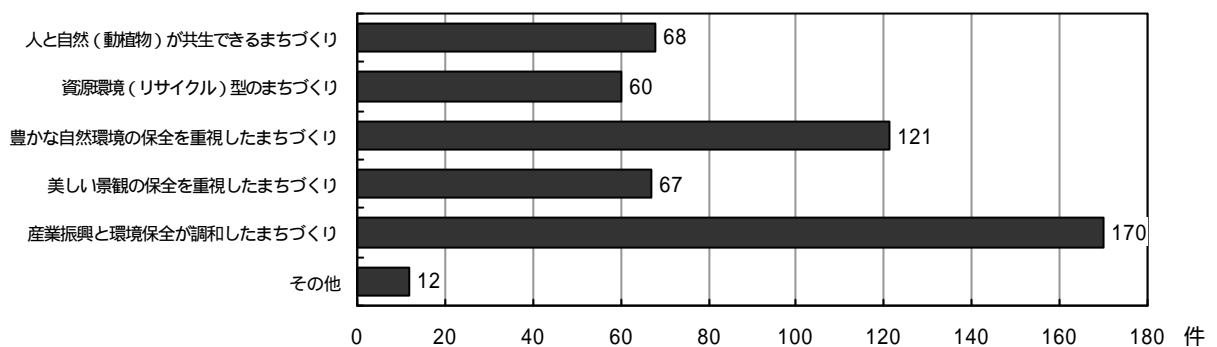
#### (4) 「富良野市環境基本計画」に望むこと

##### 将来における望ましい環境像

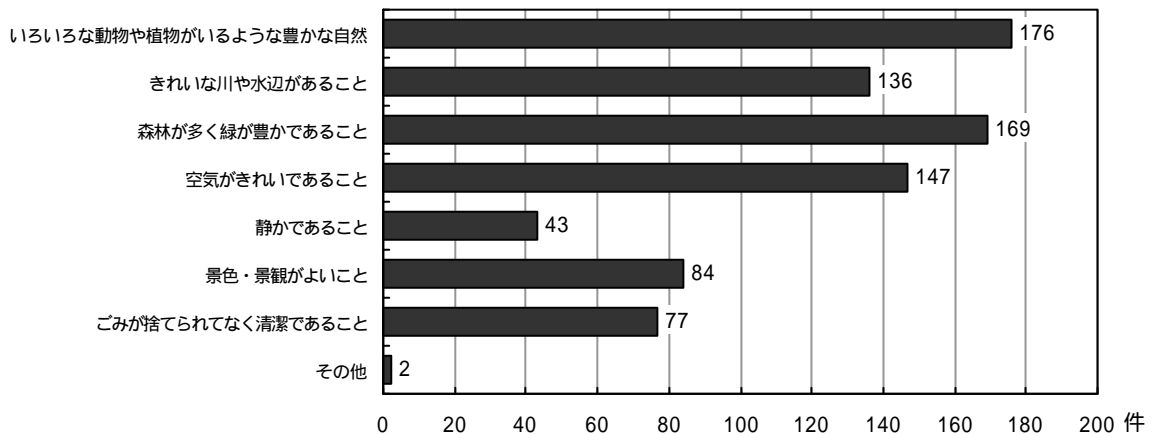
市民に、本市の将来における望ましい環境像について尋ねたところ、「産業振興と環境保全が調和したまちづくり」という回答が最も多く、経済発展と環境保全の両方を望む声が多くみられます。

また、小中学生に将来の環境において大切にしたいことを尋ねたところ、小学生は「いろいろな動物や植物がいるような豊かな自然」「森林が多く緑が豊かであること」という回答が多く、中学生は「空気がきれいであること」「きれいな川や水辺があること」を望む声が多くなっています。

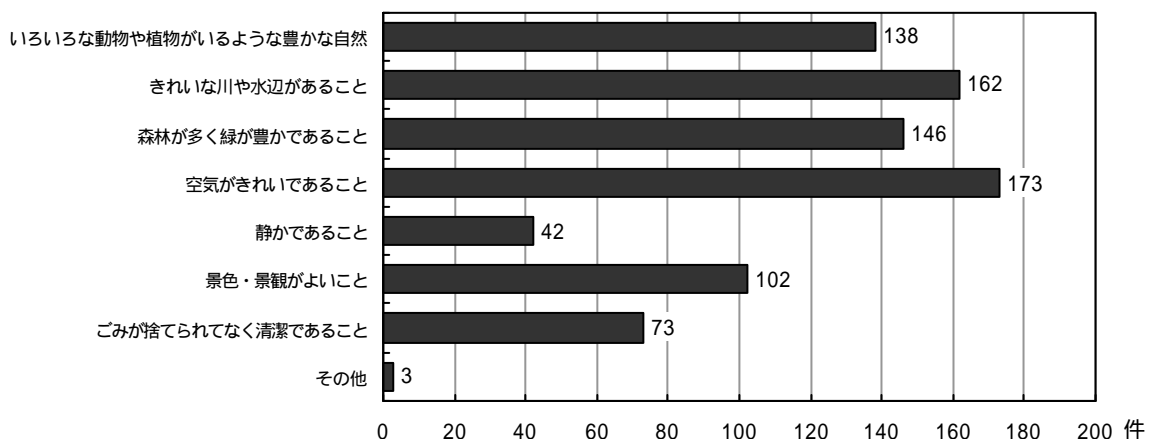
望ましい環境像（市民）



富良野市の環境で大切にしたいこと（小学生） 3つまで選択



富良野市の環境で大切にしたいこと（中学生） 3つまで選択



## 「富良野市環境基本計画」における重点施策

市民に「富良野市環境基本計画」において重点を置くべきと考える環境施策について尋ねたところ、「豊かで美しい自然を守り、育てる」という回答が最も多く、次いで「廃棄物問題に積極的に取り組む」「自然や文化等の環境資源の活用により、まちの活性化を推進する」「生態系を守り、人と動植物が共生する安定した環境を育てる」など、自然環境の保全や廃棄物問題への取組、まちの活性化に関する回答が多くみられます。

環境基本計画において重点を置くべきと考える環境施策（市民） 2つ選択

